

平成19年度（第51回）  
岩手県教育研究発表会発表資料

特別支援教育

# 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における 組織的，系統的なキャリア教育の在り方に関する研究

研究協力校  
岩手県立花巻養護学校

平成20年1月9日  
岩手県立総合教育センター  
特別支援教育室  
佐藤修子

## 《 目 次 》

研究の目的	1
研究の方向性	1
研究の年次計画	1
本年度の研究内容与方法	1
1 研究の目標	1
2 研究の内容与方法	2
3 研究協力校	2
昨年度の研究の概要	2
1 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的な キャリア教育の在り方についての基本的な考え方	2
(1) 特別支援学校（知的）におけるキャリア教育のとらえ	2
(2) 知的障害のある児童生徒の勤労観・職業観のとらえと内容	3
(3) 各発達段階における勤労観・職業観の育成	3
(4) 本研究における勤労観，職業観を育む学習プログラムの枠組みを構成する力	3
2 県内の特別支援学校（知的）におけるキャリア教育に関する実態調査	4
(1) 調査の目的と内容	4
(2) 調査の結果と分析	5
3 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的な キャリア教育の在り方に関する基本構想	5
(1) 組織的，系統的なキャリア教育のとらえ方	5
(2) 組織的，系統的なキャリア教育を推進するための手だての構想	5
(3) 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的な キャリア教育の在り方に関する基本構想図	6
4 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的な キャリア教育を推進するための手だての試案の作成と第一次実践	7
(1) 手だての試案の全体構想	7
(2) キャリア教育推進ガイドブック「理解編」第一次案の作成	7
(3) 実践計画及び検証計画の作成と研究協力校における第一次実践	8
本年度の研究の分析と考察	9
1 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的な キャリア教育を推進するための全体計画の作成	9
(1) 全体計画とは	9
(2) 本研究における全体計画とは	10
(3) 組織的なキャリア教育を推進するキャリア教育全体推進計画の作成	10
(4) 系統的なキャリア教育を推進するキャリア教育全体学習計画の作成	12
2 知的障害のある児童生徒一人一人の自己実現を図るキャリア教育の在り方の提示	16
(1) キャリア教育推進ガイドブック「実践・資料編」の作成	16
(2) 研究協力校における第二次実践	18
3 実践結果の分析と考察	18
(1) 事前・事後調査の実施結果と分析	18
(2) 実践結果の考察	25
4 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的な キャリア教育を推進するための手だてのまとめ	27
(1) 特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック「理解編」「実践・資料編」 の成果と課題	27
(2) 特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブックの充実	27
研究のまとめ	28
1 研究の成果	28
2 今後の課題	29
おわりに	
【参考文献】	

## 研究の目的

今日の就職、就業をめぐる課題に対して、学校教育においてはキャリア教育の早期からの効果的な実施が求められている。特別支援学校においても、福祉制度の改革によって自己選択・自己決定する力が必要とされていることや、職域の拡大、就職後の定着率の向上等を図るためにキャリア教育の視点からの進路指導の在り方が注目されつつある。特に知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校においては、中学部及び高等部の「作業学習」や「実習」、「特別活動」、「総合的な学習の時間」等の中で、一人一人の実態に応じた就労や社会参加に向けた実際的な取組が以前から行われてきた。

しかし、知的障害のある児童生徒の中には、就労や社会参加に向けた学習活動が主体的、意欲的なものになっていなかったり、働くことへの意識が十分に育っていなかったりする場合が見受けられる。これは、知的障害の特性のみならず、今までの指導が働く力を身に付けるための指導に片寄りがちで、児童生徒一人一人に応じた将来の夢や希望、身の周りの仕事や社会参加への関心・意欲を育てることが十分でなかったためと思われる。

このような状況を改善するためには、キャリア教育の視点で教育活動全体の見直しを行い、小学部の段階から、児童生徒一人一人の個性や能力及び発達段階に基づいた職業観・勤労観の育成を計画的に行うことが必要である。

そこで、この研究は、小学部から高等部までの一貫した校内の組織的、系統的な全体計画を作成し、児童生徒一人一人の自己実現に向けたキャリア教育の在り方を明らかにすることにより、知的障害のある児童生徒の社会参加と自立に役立てようとするものである。

## 研究の方向性

知的障害のある児童生徒の社会参加と自立を促すため、キャリア教育の視点に基づいた小学部から高等部までの一貫した校内の組織的、系統的な全体計画を作成し、卒業後を見通した支援の在り方を提示する。

## 研究の年次計画

この研究は、平成18年度から平成19年度にわたる2年次研究である。

### 第1年次（平成18年度）

県内の特別支援学校（知的）におけるキャリア教育の現状と課題に関する実態調査，調査結果の分析・考察，知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的なキャリア教育の在り方に関する基本構想の立案と手だての構想，手だての試案の作成，手だての試案に基づく第一次実践

### 第2年次（平成19年度）

手だての試案に基づく第二次実践，実践結果の分析と考察，知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的なキャリア教育の在り方のまとめ

## 本年度の研究内容と方法

### 1 研究の目標

第1年次に立案した基本構想と手だての構想に基づき，小学部から高等部までの一貫した校内の組織的，系統的な全体計画を作成するとともに，児童生徒一人一人の自己実現を図るために必

要な事柄をキャリア教育推進ガイドブックとしてまとめる。実践をとおして、知的障害のある児童生徒の社会参加と自立を促すための卒業後を見とおした支援の在り方とその方法を示す。

## 2 研究の内容と方法

- (1) 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的な全体計画の作成（文献法）

キャリア教育に関する先行研究や文献，及び知的障害児を対象とした特別支援学校における教育課程の編成と進路支援に関する先行研究や文献を基に，小学部から高等部までの一貫した校内の組織的，系統的な全体計画を作成する。

- (2) 知的障害のある児童生徒一人一人の自己実現を図るキャリア教育の在り方の提示（文献法）

第1年次における県内の実態調査の結果を踏まえ，知的障害のある児童生徒一人一人の個性や能力及び発達段階に基づいた職業観・勤労観の育成を計画的に行うために必要な事柄を「特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック」としてまとめ，提示する。

- (3) 指導実践と分析・考察（指導実践，観察法，調査法）

「特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック」の第一次案を用いて，研究協力校におけるキャリア教育に関する理解や意識の向上を図ることをとおして，具体的な取組を促し，事前・事後調査の実施によりガイドブックの内容と活用について検証を行う。

- (4) 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的なキャリア教育の在り方に関する研究のまとめ

指導実践の結果を基に，「特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック」の見直しと充実を図り，知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的なキャリア教育の在り方に関する研究のまとめを行う。

## 3 研究協力校

岩手県立花巻養護学校

### 昨年度の研究の概要

- 1 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的なキャリア教育の在り方についての基本的な考え方

- (1) 特別支援学校（知的）におけるキャリア教育のとらえ

知的障害のない児童生徒と同じように知的障害のある児童生徒にも，家庭や学校生活，地域社会等における役割や立場があり，個々に応じて様々な役割が求められていることから，普通教育のキャリア教育の定義が同様に適用されると考える。ただし，知的障害のある児童生徒の実態を考慮し，「働くこと」のとらえ方や，キャリア教育の期間等についてはより広い概念を含む方が適切と考えた。【表1】に本研究における知的障害のある児童生徒のキャリア教育の定義と内容について示す。

【表1】知的障害のある児童生徒のキャリア教育の定義と内容

定 義	内 容
児童生徒が社会生活にかかわり合いながら，一人一人の特性や実態に合った，自己実現が図られるよう，一人一人のキャリア発達を支援し，望ましい勤労観・職業観を育み，主体的に自らの生き方や進路選択できる能力・態度を育成する教育	望ましいキャリア発達を促すための勤労観・職業観に関すること 自らの生き方や進路を主体的に選択できる能力・態度に関すること 「働く力」「生活する力」等の具体的な能力に関すること 家庭生活，地域生活，職業生活における支援の在り方に関すること

(2) 知的障害のある児童生徒の勤労観・職業観のとらえと内容

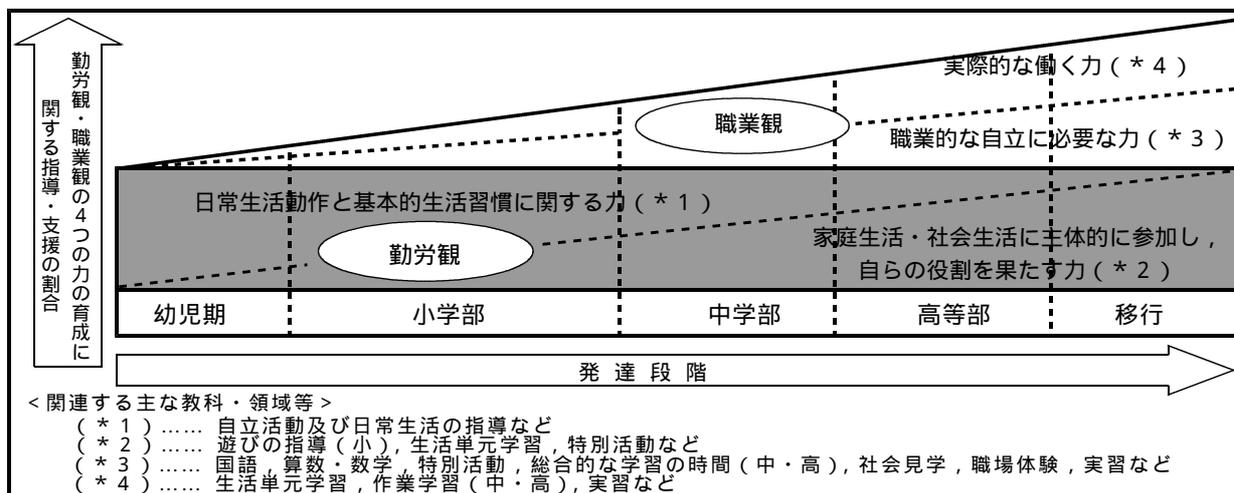
知的障害のある児童生徒の勤労観・職業観を育むためには、態度や見方、考え方というような情意面からだけでなく、実際のな力という能力面の育成についても合わせて行う必要があると考えられることから、本研究における勤労観・職業観のとらえと内容を【表2】のようにとらえた。

【表2】勤労観・職業観のとらえと内容

	とらえ	内 容	
		態 度	具体的な力
勤 労 観	日常生活の中での役割の理解や考え方と役割を果たそうとする態度、及び役割を果たす意味やその内容についての考え方	社会参加と自立に向けての基盤になる態度	日常生活動作と基本的な生活習慣に関する力 家庭生活・社会生活に主体的に参加し役割を果たす力
職 業 観	職業についての理解や考え方と職業に就こうとする態度、及び職業をとおして果たす役割の意味やその内容についての考え方	職業的な自立に必要な態度	実際の働く力 職業的な自立に必要な力

(3) 各発達段階における勤労観・職業観の育成

勤労観・職業観に関する力の育成には、幼児期から小学部、中学部、高等部、社会生活にかけて、それぞれの発達段階に応じた適切な指導や支援が必要であると考えられる。各発達段階におけるそれぞれの力を育てる指導・支援の割合と勤労観・職業観の育成の関係を【図1】に表す。



【図1】各発達段階における勤労観・職業観の4つの力の育成に関する指導・支援の割合

(4) 本研究における勤労観・職業観を育む学習プログラムの枠組みを構成する力

「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」の調査研究報告書(2002)(以下、報告書)の中で示されている「職業観・勤労観を育むための枠組み(例)」では、各段階における職業的(進路)発達課題を4つの能力領域に大別し、それぞれを構成する能力を再構成して、【表3】のように各領域2つずつ計8つの能力に整理している。

【表3】職業的発達課題に関する領域と能力

領 域	能 力
人間関係形成能力	自他の理解能力 コミュニケーション能力
情報活用能力	情報収集・探索能力 職業理解能力
将来設計能力	役割把握・認識能力 計画実行能力
意志決定能力	選択能力 課題解決能力

知的障害のある児童生徒の勤労観・職業観を育むためには、前述のとおり実生活との関連や実際のな力の育成と合わせて進めることが大切であると考えられることから、本研究における勤労観・職業観を育む学習プログラムの枠組みを構成する力を次ページ【表4】のように考えた。勤労観・職業観を育む学習プログラムの枠組みを構成する力は、キャリア発達を促すことに必要な能力という位置付けであることから、本研究ではキャリ

ア発達能力と表現することとした。

知的障害のある児童生徒にとっては、これらの職業発達課題の領域に関する3つの力と実際のな力の形成とを合わせて育むことが必要であると考えことから、本研究における学習プログラムの枠組みを構成する力（キャリア発達能力）においては、実際のな力の領域として「はたらく力」「生活する力」「楽しむ力」の3つの力を加え、6つの力として学習プログラムの枠組みをとらえることとした。

【表4】本研究における学習プログラムの枠組みを構成する力

キャリア発達能力		主な内容（能力）
職業発達課題の領域	かかわる力	人・もの・情報とよりよく関わる力（人間関係形成能力・情報活用能力）
	えがく力	夢・目標・見通し・果たすべき役割を描く力（将来設計能力）
	もとめる力	より良い方向に向けて選ぶ・決定する力（意志決定能力）
実際のな力の領域	はたらく力	役割に応じて、主体的に働く力（職業理解能力・作業能力）
	生活する力	日常生活動作や基本的な生活習慣、家庭生活を行うための力（日常生活力、社会生活力）
	楽しむ力	余暇を活用し、心豊かな生活を過ごすための力（余暇活用能力）

また、報告書では、キャリア発達能力の育成について、「人間の成長・発達の過程には、いくつかの段階（節目）と各段階で取り組まなければならない発達課題がある」とし、小学校、中学校、高等学校の段階における「職業的（進路）発達段階」と「職業的（進路）発達課題」の例を示している。報告書で示された例を参考に特別支援学校（知的）における小学部から高等部までの学部段階別の職業的発達段階と職業的発達課題の例として【表5】のようにまとめ、本研究における勤労観・職業観を育む学習プログラムを作成したいと考えた。

【表5】特別支援学校（知的）における各学部段階別の職業的発達段階と職業的発達課題（例）

小学部段階	中学部段階	高等部段階
＜職業的（進路）発達段階＞		
身辺自立の確立と人間関係の基盤形成の時期	社会生活能力と自己表現力の育成の時期	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定力の育成の時期
＜職業的（進路）発達課題＞		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身辺自立の確立</li> <li>・健康な体作りと望ましい生活習慣の獲得</li> <li>・身のまわりの人やもの社会への関心の向上</li> <li>・自分のことは自分でやるうとする態度の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の確立</li> <li>・社会生活に対する興味や関心の向上</li> <li>・自分の気持ちを表現し相手に伝える力の獲得</li> <li>・役割を果たすことの大切さや自己有用感の獲得</li> <li>・「働くこと」への意欲や関心の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活に必要な知識・技能の獲得</li> <li>・積極的に社会に関わる意欲や態度の形成</li> <li>・自己選択、自己決定力の獲得</li> <li>・「働くこと」の理解と職業に就くことへの意欲や態度の形成</li> </ul>

## 2 県内の特別支援学校（知的）におけるキャリア教育に関する実態調査

### (1) 調査の目的と内容

本調査は、研究の第1年次において、県内8校の県立特別支援学校（知的）の進路指導主事と各学部主事を対象に、知的障害のある児童生徒のキャリア教育の現状と課題を明らかにし、キャリア教育を推進するための組織的な在り方や卒業後を見通した系統的な指導の在り方等を示すための資料を得るために実施したものである。

調査紙の質問内容を【表6】に示す。

【表6】調査紙の質問内容

	進路指導主事対象	学部主事対象
1 実施時期と指導内容	(1) キャリア教育の認知度 (2) 実施開始時期（実際と希望） (3) 学習や指導内容（学校） (4) 学習・内容面の課題	(1) キャリア教育の認知度 (2) 望ましい実施開始時期 (3) 勤労観・職業観を意識した指導 (4) 学習や指導内容（学部）
2 組織・体制	(5) 方針と共通理解 (6) 校内委員会の有無と役割 (7) 組織・体制上の課題	(5) 進路決定を検討する機会 (6) 進路指導の方針・共通理解 (7) 指導計画の作成
3 卒業後を見通した支援	(8) 卒業後を見通した支援の手だて (9) 就職・就業するための必要な力 (10) 自由記述	(8) 卒業後を見通した支援の手だて (9) 就職・就業する力の望ましい指導開始時期 (10) 自由記述

## (2) 調査の結果と分析

調査の結果から明らかになったことを次の6つにまとめる。

教職員のキャリア教育に関する意識や知識を高めるための手だてが必要であること

保護者との連携が不可欠であり、保護者への理解啓発が必要であること

各学部の職員の間には、勤労観・職業観の育成や卒業後を見とおした支援に対する意識に違いが見られ、この違いが組織的、系統的なキャリア教育を推進するための課題として考えられること

学校、学部・学年におけるキャリア教育の方針を組織的に位置付け、個別の指導計画や授業と関連付けながら推進する仕組みが必要であること

発達段階に応じた学習内容を明確にし、系統的な学習を促す手だてが必要であること

勤労観・職業観を育成し、また児童生徒の主体的な活動を促す指導や授業の在り方を示す必要があること

以上のことから、知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校において、組織的、系統的にキャリア教育を推進するためには、保護者への理解啓発及び教職員の共通理解と取組を促すための手だてが必要であることがわかった。

また、組織的、系統的にキャリア教育を行うためには、学校・学部等における方針を明確にし、発達段階に応じた学習内容を明らかにする全体計画の作成及び具体的な指導の在り方を示す必要があることを確認することができた。

## 3 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的、系統的なキャリア教育の在り方に関する基本構想

### (1) 組織的、系統的なキャリア教育のとらえ方

特別支援学校（知的）における組織的、系統的なキャリア教育を推進していくためには、組織的な取組と系統的な取組の二つに分けて考え、この二つの取組を関連付けて行うことが必要であると考える。

組織的な取組とは、キャリア教育の校内における位置付けの明確化を図ることであると考える。そのためには、各学校におけるキャリア教育の方針を明確にし、学校の組織や学校運営のPDCAサイクルに位置付け、個別の指導計画や日々の授業に関連付けて行えるようなシステムや流れを示す手だてが必要であると考え。

系統的な取組とは、発達段階に応じたキャリア教育の内容の明確化を図ることであると考える。そのためには、各発達段階におけるキャリア発達能力育成の在り方や各教科・領域との関連性を示す手だてが必要であると考え。

また、組織的、系統的なキャリア教育を推進していくためには、教職員や保護者等のキャリア教育に対する共通理解を図ることが重要であることから、その手だてを示す必要があると考える。

### (2) 組織的、系統的なキャリア教育を推進するための手だての構想

#### ア キャリア教育全体推進計画の作成

キャリア教育を推進する仕組みを校内組織へ位置付け、学校全体の方針や学部毎の目標、個別の指導計画や授業との関連を明らかにした「キャリア教育全体推進計画」を作成する。

#### イ キャリア教育全体学習計画の作成

「かかわる力」「えがく力」「もとめる力」「はたらく力」「生活する力」「楽しむ力」の6つのキャリア発達能力を軸とした知的障害のある児童生徒の勤労観・職業観を育むための学習プ

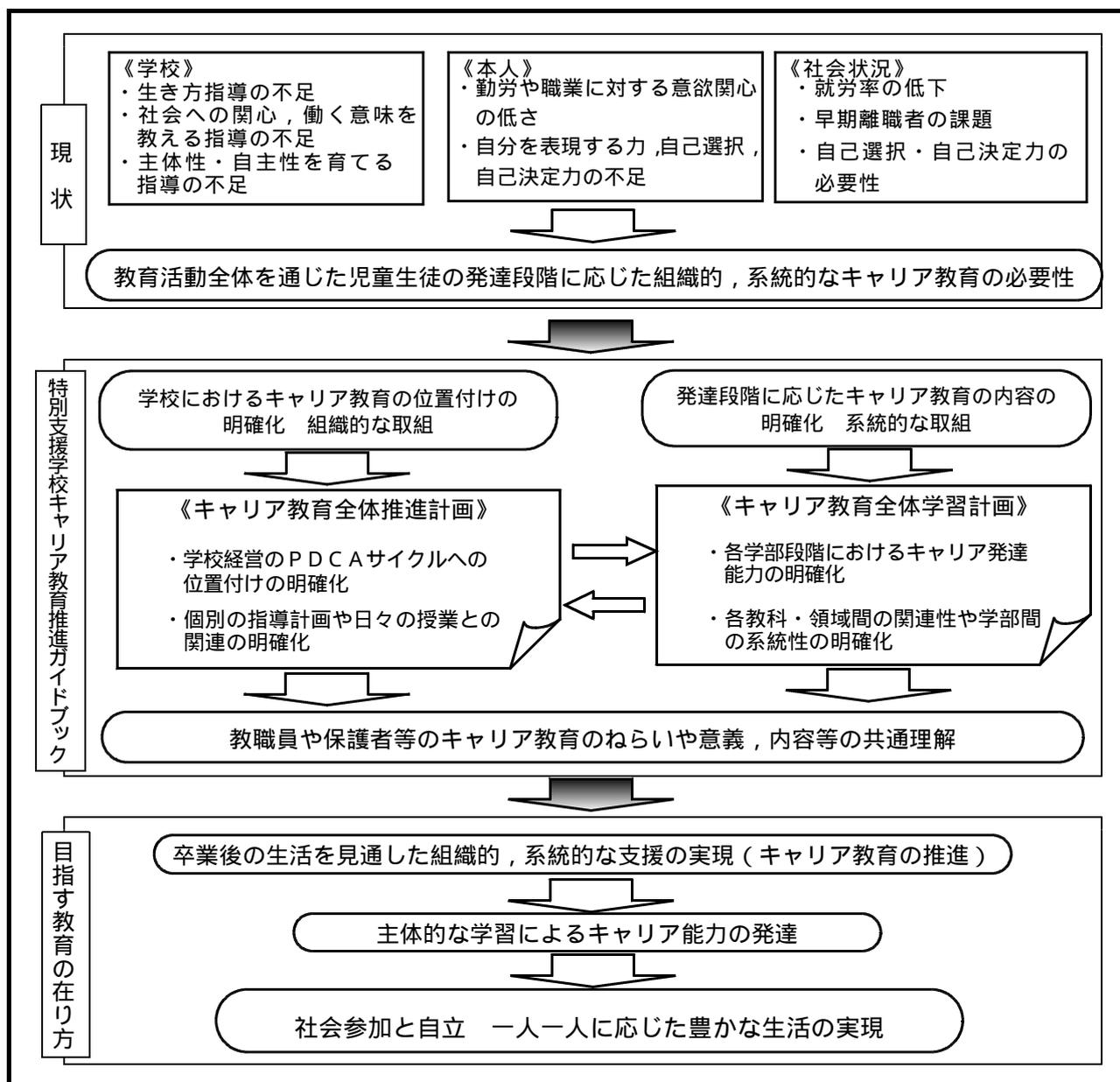
プログラムを作成する。この学習プログラムを本研究では「キャリア教育学習プログラム」と呼ぶこととする。さらに、日常の授業への活用を図るために各教科・領域間の関連性や学部間の系統性を示した「キャリア教育学習プログラム」を作成し、この二つのプログラムを「キャリア教育全体学習計画」として提示する。

ウ 特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブックの作成

組織的，系統的にキャリア教育に取り組むためには，キャリア教育に対する教職員・保護者等の共通理解が重要であることから，「特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック」を作成し，キャリア教育のねらいや意義，内容等についての理解を促進する。

(3) 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的なキャリア教育の在り方に関する基本構想図

知的障害のある児童生徒の在籍する特別支援学校における組織的，系統的なキャリア教育を推進するための基本構想図を【図2】に示す。



【図2】 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的なキャリア教育の在り方に関する基本構想図

4 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的なキャリア教育を推進するための手だての試案の作成と第一次実践

(1) 手だての試案の全体構想

県内の実態調査の結果より，知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的なキャリア教育を推進するためには，教職員や保護者に知的障害のある児童生徒に対するキャリア教育の理解を促すことが最も必要であることから，「特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック」を作成することとした。キャリア教育は学校の教育活動全体にかかわるものであり，さらには，労働，福祉，医療等の関係機関及び地域との連携も必要であることから，作成する内容が多岐にわたり，かつ膨大になることが予想されるため，ガイドブックを分冊化することが必要であると考え。そこで，ガイドブックの構想を【図3】のように考えた。

作成に当たっては，保護者等にも読んでもらえるような内容や表現・紙面構成を心がける必要があると考える。また，活用の方法として，校内研修会等の資料や自校のキャリア教育の在り方を検討してもらうための資料とすることを想定していることから，最新の情報を端的にわかりやすく，また，数多く示す必要があると考える。

＜特別支援学校キャリア教育推進ガイドブックの全体構想＞

対 象：教職員，保護者等  
 目 的：教職員及び保護者等の理解啓発を図り，特別支援学校におけるキャリア教育の推進に資する  
 活用方法：教職員，保護者等へ冊子またはプリントで配付し，キャリア教育に関する理解啓発資料としたり，または教職員間，保護者間での研修資料としたり，児童生徒へのキャリア教育の指導資料等としたりする方法で活用する  
 内容構成：「理解編」，「実践・資料編」の二分冊構成とする。各冊子の内容や留意事項については以下のとおり

- 理 解 編 -	- 実 践 ・ 資 料 編 -
<p>目的 キャリア教育の理解啓発            対象 教職員・保護者・支援関係者等            内容            特別支援学校におけるキャリア教育の在り方や進め方の概観を示す            卒業後の生活をイメージできるようにするための情報や資料を示す            留意事項            ・キャリア教育や特別支援教育の動向や情報を幅広く提示する            ・福祉や労働関係等，教育以外の分野の情報も多く提示する            ・組織的，系統的なキャリア教育の在り方については必要性や概観について示す            ・専門用語等には解説を入れるなど確実な理解を促せるよう配慮する</p>	<p>目的 キャリア教育の実践の推進            対象 教職員・支援関係者等            内容            特別支援学校における組織的，系統的なキャリア教育の在り方を示す            指導・支援の基本的な在り方やキャリア発達を促すための資料を示す            留意事項            ・キャリア教育全体推進計画及びキャリア教育全体学習計画の作成例と作成手順例を提示する            ・知的障害教育の基礎・基本を十分に踏まえた内容になるよう留意する            ・障害の多様化や重度化に対応した豊富な資料を掲載し，児童生徒理解とキャリア教育の具体的な実践に役立てるよう配慮する</p>

\* 「理解編」は研究の第1年次に作成し，第一次実践で活用する。「実践・資料編」は研究の第2年次に作成し，第二次実践で活用する配付時期をずらすことで，段階的な理解と意識の定着を図り，学校全体の中で共通理解をもって活用されるようにしたいと考える

【図3】特別支援学校キャリア教育推進ガイドブックの全体構想

(2) キャリア教育推進ガイドブック「理解編」第一次案の作成（【別冊資料1】参照）

ア キャリア教育推進の流れとガイドブックとの関連について

本研究で作成するキャリア教育推進ガイドブックは，教職員や保護者の共通理解を図ることと，各校が自校の実態や特色を生かしながら，組織的，系統的にキャリア教育を推進するための手だてとなることが目的である。そのためには，組織的，系統的にキャリア教育が推進されるように推進の流れを示す必要があると考える。

そこで、キャリア教育推進の流れと作成するガイドブックの関連について【図4】のように考え、図に示す内容が含まれるように「理解編」を構成し、作成することとした。

### イ キャリア教育推進ガイドブック「理解編」の内容

ガイドブックの全体構想とキャリア教育の推進の流れから、「理解編」は次の三部で内容を構成することとした。

第1部は「キャリア教育の理解と推進に向けて」と題し、特別支援学校におけるキャリア教育の必要性と在り方についての理解が図られるように、ノーマライゼーション社会の実現を図る特別支援学校の役割や知的障害者の就労の現状、勤労観や職業観の育成、卒業後を見とおした支援に必要な要素等について記述した。

第2部は「キャリア教育を推進するための体制づくり」と題し、特別支援学校において、組織的、系統的にキャリア教育を推進するために必要な計画や推進方法等について基本的な理解が図られるように、キャリア教育全体推進計画やキャリア教育全体学習計画の概観、キャリア教育推進の流れ等について記述した。

第3部は「進路支援資料」と題し、保護者や教職員が卒業後の生活をイメージできるようにするために、卒業後の生活（就労先）で求められる力や労働、福祉関係の制度等の情報について記述した。

キャリア教育推進ガイドブック「理解編」及び「実践・資料編」の具体的な項立て等については、「本年度の研究の分析と考察」p16の【図16】でまとめて示しているので参照されたい。

### (3) 実践計画及び検証計画の作成と研究協力校

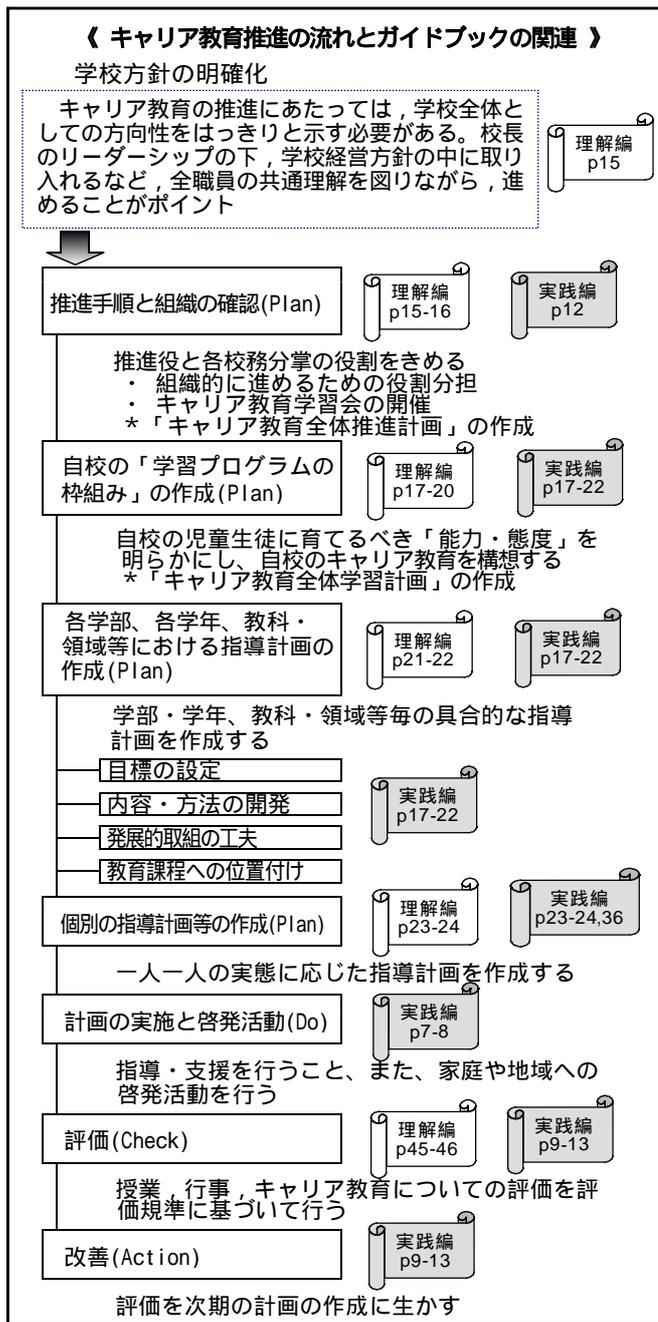
における第一次実践

#### ア 実践の目的

「キャリア教育推進ガイドブック（理解編）」第一次案を用いて、研究協力校におけるキャリア教育に関する理解や意識の向上を図る。

#### イ 実践計画

実践は次ページ【表7】に示すねらい・手だて・内容で行う。



【図4】キャリア教育推進の流れとガイドブックとの関連  
注) 図はキャリア教育推進ガイドブック「実践・資料編」のp4からの引用。また推進の流れの部分は、「理解編」p12の第一部の最後の項「卒業後を見とおした支援の実現」で提示したものである

【表7】実践計画

実践の段階	ねらい	手だて・内容
第一次実践 (2月)	キャリア教育に対する基本的な理解を図り、卒業後を見通した支援の組織的、系統的な取組に対する意識の向上を促す	キャリア教育推進ガイドブック「理解編」の配布・説明会
第二次実践 (6～9月)	組織的、系統的なキャリア教育に関する理解を図り、教職員一人一人のキャリア教育の具体的な取組をさらに促す	キャリア教育推進ガイドブック「実践・資料編」の配布・説明会
	特別支援学校の授業における児童生徒のキャリア発達能力を伸ばす指導・支援のポイントを収集し、ガイドブックの充実を図る	授業参観による資料収集

\*平成19年度新任職員に対しても4月に第一次実践(2月)と同内容で配付・説明を行う

\*授業参観による資料収集は、小・中・高等部の各通常学級と特別学級の1日の学習の様子、中・高等部の実習の様子、販売活動の様子(ハサ-)等を収集する

## ウ 検証計画

指導実践をとおして、「キャリア教育推進ガイドブック(理解編)」及び「同(実践・資料編)」が研究協力校におけるキャリア教育の推進にどのように役立ったかをみるために、

【表8】のような検証計画を作成し、実践結果の分析と考察を行う。

【表8】検証計画

検証項目	対象	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
キャリア教育推進ガイドブックがキャリア教育の推進にどのように役立ったか	教諭 講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育への理解</li> <li>組織的に取り組むことへの理解</li> <li>勤労観、職業観の育成及び卒業後を見通した指導・支援への意識</li> <li>勤労観、職業観の育成及び卒業後を見通した指導・支援の取組</li> <li>個別の指導計画等への取組</li> <li>キャリア教育の推進への意識</li> </ul>	質問紙法 (事前・事後)	事前・事後の各調査結果を小学部、中学部、高等部毎の各回答の割合及び全職員の各回答の割合から分析・考察する
キャリア教育推進ガイドブックがどのように活用されたか	実習 教諭	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導、支援の参考にした部分</li> <li>具体的な活用場面や対象</li> </ul>	質問紙法 (事後調査と合わせて実施)	各学部毎の回答の特徴、全職員の回答の特徴から分析・考察する

## エ 第一次実践(「理解編」の配付・説明会)の概要

(ア) 実施日：平成19年2月26日

(イ) 対象：教諭57名、講師9名、実習教諭2名、計68名

(ウ) 参加率：小学部17名(77.3%)、中学部14名(66.7%)、高等部19名(70.3%)、計50名(73.5%)

(エ) 内容：研究概要説明と協力の依頼 「理解編」第一次案の概要 質問等

(オ) 配布物：研究リーフレット、キャリア教育推進ガイドブック「理解編」第一次案

(カ) 様子：説明に対する質問等はなく、予定の時間(30分間)内に終わることができた。

## 本年度の研究の分析と考察

### 1 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的、系統的なキャリア教育を推進するための全体計画の作成

#### (1) 全体計画とは

全体計画とは、すでに作成が行われている総合的な学習の時間の全体計画を参考にすると「学校における全教育活動との関連の下に、目標及び内容、育てようとする資質や能力や態度、学習活動、指導方法や指導体制の工夫改善、学習の評価の計画などを示すもの」とされている。

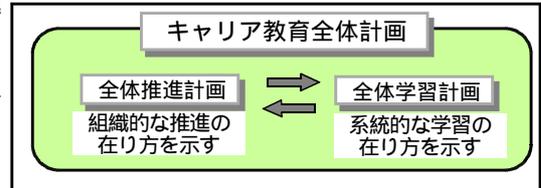
総合的調査研究協力者会議報告書(2004)において、「キャリア教育を進めるに当たっては、キャリア教育の全体計画やそれを具体化した指導計画を作成する必要がある」と述べられており、岩手県の学校教育指導指針(2007、小・中学校)でも、「教育課程の中に明確に位置付ける」「校務分掌に担当を設ける」「全体計画を作成する」こと等が示されている。また、特別支援学校においても、同指針の中で「指導の全体計画を整備する」と示されていることから、キャリア教育の推進には「全体計画」を作成することが不可欠であると考えられる。

(2) 本研究における全体計画とは

キャリア教育の全体計画について、特に決められた形式はなく、すでに作成が義務づけられている「道徳」や「総合的な学習の時間」の全体計画の作成例等を参考に、全体計画に必要な項目をあげると【図5】のようになる。全体計画に含まれる項目が多いことや、小学部から高等部までの3つの学部が設置されている特別支援学校においては、学部の枠を超えた組織的な推進が特に必要であると考えことから、本研究においては、組織的な推進にかかわる全体計画（全体推進計画）と系統的な学習の流れを示す全体計画（全体学習計画）の二つを作成し、合わせてキャリア教育全体計画（【図6】）としたいと考える。

学校方針や学校目標	キャリア教育目標
キャリア教育重点目標	関係教育法令等
児童生徒・地域の実態	進路指導の課題
育成したい態度や力	各学年の指導目標
各教科・領域等における指導目標・内容	各教科・領域等における指導目標・内容
年間指導計画	推進するための基
学習活動	指導方法
指導体制	評価の計画 など

【図5】全体計画の項目(例)



【図6】本研究における全体計画の概要

しかし、各学校における実際の作成においては、自校の実態に合わせ、共通理解を得やすいような形に工夫して表すことが大切である。したがって、本研究で作成する全体計画等は、各校が作成する際の参考例という形で提示したいと考える。

(3) 組織的なキャリア教育を推進するキャリア教育全体推進計画の作成

ア キャリア教育全体推進計画作成の意義

本県における教育品質向上運動等への取組によって、各県立学校では、学校の教育ビジョンの明確化や組織体制の見直しが進んでいる。そこで示されたビジョンを日常の指導・支援に反映させるためのシステムが必要であり、そのシステムをわかりやすくまとめたものが「全体推進計画」であると考え。

- (1) 学校教育目標と日常の指導・支援の関連性を明確にすることで、方向性のある指導・支援ができる
- (2) 個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成を組織的にバックアップする体制ができる
- (3) 計画立案・指導・評価の流れがより明確になることで指導・支援の充実につながる

【図7】全体推進計画作成の意義

児童生徒の社会参加と自立に向け、卒業後を見とおした指導・支援を行うキャリア教育の充実を図ることは、そのまま特別支援学校における指導・支援の充実につながるものことから、キャリア教育は、学校の教育ビジョンや教育計画と密接な関係にあると考えることができる。つまり、キャリア教育全体推進計画の作成は、学校としての一貫性のある組織的な指導・支援の実現に必要なことと考える。

また、特別支援学校では「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」等の作成が義務付けられている。これらの作成は、学級担任が行う場合が多いが、作成する際の手順や指導目標設定の基準等が校内で明確になっていなかったり、授業における学習内容や指導目標の設定も、担任や授業担当者任せになっていたりすることが多いように見受けられる。そこで、これらの計画の作成等をバックアップするシステムとしても、キャリア教育全体推進計画の作成は意義のあることと考える。

さらに、知的障害児に対しては、教育課程上の特例が認められており、個に応じた学習や支援が行われている。このことは、学年毎の到達規準がなく、評価規準もあいまいになりやすいということにつながっているとも考えられる。全体推進計画を作成することは、指導と評価の一体化が図られ、児童生徒に対する指導・支援の充実につながるという面でも意義のあることであると考え、以上ことを【図7】にまとめた。

イ キャリア教育全体推進計画の作成

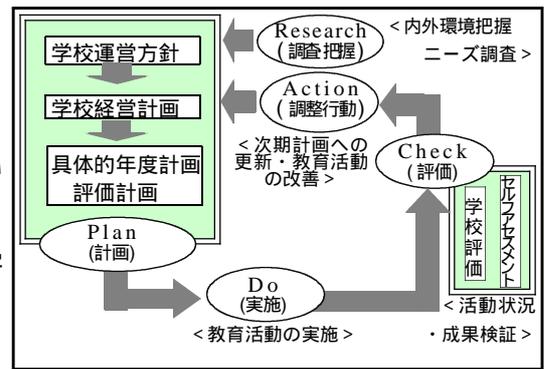
(ア) キャリア教育全体推進計画（流れ図）の作成

本県における「教育品質向上運動」の取組によって、PDCAサイクルの考え方が学校経営へ導入されてきている（【図8】）。

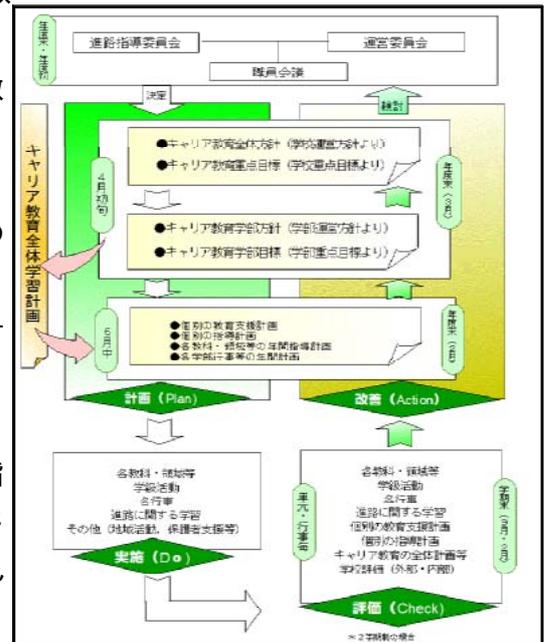
キャリア教育を組織的に推進するためには、この学校経営のPDCAサイクルにキャリア教育を位置付けることが必要であると考え。全教職員が全体の流れをイメージしやすいように1年間の推進の流れをPDCAサイクルに沿ってまとめたものが、【図9】のキャリア教育全体推進計画（流れ図）である。

特別支援学校では、児童生徒一人一人の「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」「個別の移行支援計画」の作成が行われている他、学級経営案、年間行事計画、各教科等の年間指導計画、単元の指導計画等、多くの計画が作成されている。それらを有機的に関連付け、実際の指導・支援に生かしていくためには、様々な計画の位置付けや関係を明らかにするとともにPDCAサイクルの時期や担当等を明確にする必要があると考える。

キャリア教育は、学校の教育活動全体をとおして指導・支援していくものであるため、関連する計画も多く、学校全体の流れを把握することが難しいと思われる。そのため【図9】のように、PDCAサイクルに沿った図を作成し、提示することは、組織的なキャリア教育を円滑に進めるために、有効ではないかと考える。



【図8】PDCAサイクル実践イメージ  
（参考：岩手県教育委員会教職員課資料）



【図9】キャリア教育全体推進計画（流れ図）  
【資料1】参照

(イ) キャリア教育全体推進計画表の作成

キャリア教育をPDCAサイクルに沿って具体的に推進していくためには「計画(Plan)」「実施(Do)」「評価(Check)」「改善(Action)」の段階毎に担当者（担当分掌）、検討の場、時期、ねらい、内容等を明らかにする必要がある。これを「キャリア教育全体推進計画表」としてまとめた（【資料2】）。【図10】は、「キャリア教育全体推進計画表」より「計画(Plan)」段階における部分を抜粋したものである。各項目の具体的な推進方法を一覧にまとめることで、それぞれの計画の役割を確認したり、関連付けながら作成を進めることに役立たせたいと考える。

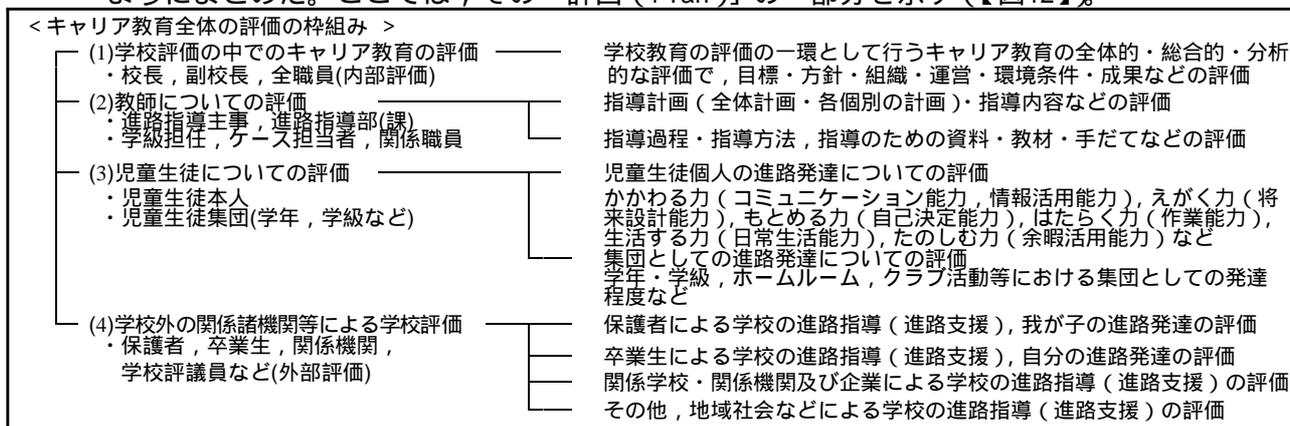
段階	項目	担当	検討の場	時期	各段階における主なねらいや内容
計 画 （ P l a n）	キャリア教育全体方針 キャリア教育重点目標	校長・ 副校長	学部会 校務部会 進路指導委員会 職員会議	前年度末から 年度初め	前年度の反省（調整行動）を受け、新年度メンバーで確認・検討を行う 学校運営方針の中に明確に位置付け、自校のキャリア教育の在り方と今年度の重点目標の共通理解を図る
	キャリア教育学部方針 キャリア教育学部目標	学部長	学部会 進路指導委員会 職員会議	前年度末から 年度初め	前年度の反省（調整行動）を受け、新年度メンバーで確認・検討を行う。学部としての方針を明確にし、具体的な教育活動につながるよう、他の計画との関連を図る
	個別の教育支援計画	担任（コーディネーター）等	ケース会議、学 年会・支援会議	5月末まで	児童生徒一人一人を取り巻く関係機関と連携して、支援の方針を定める
	個別の指導計画	担任	ケース会議 学年会・面談	5月末まで	個別の教育支援計画における支援の目標を教育課程に沿った具体的な指導目標や手だてとして定める

【図10】キャリア教育全体推進計画表の計画（Plan）の一部

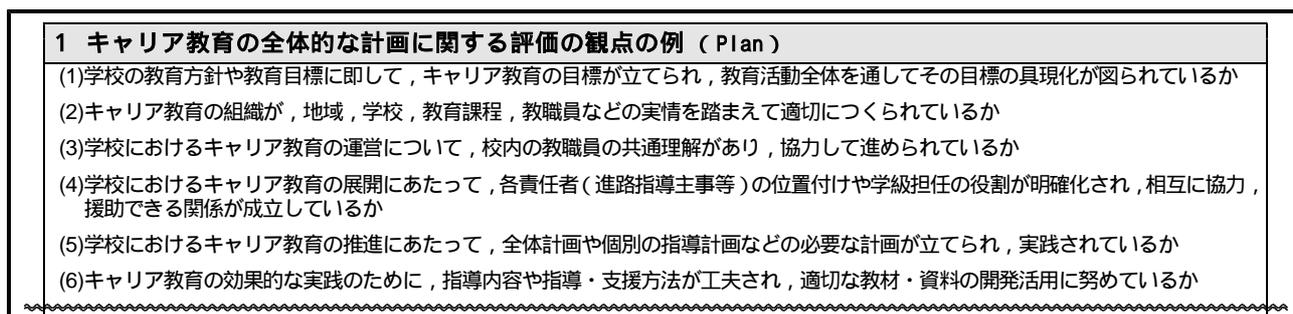
【資料2】参照

(ウ) キャリア教育全体の評価の方法について

キャリア教育の評価にあたっては、授業や各指導計画の評価という学校内の評価だけではなく、保護者や就労・実習先企業等の関係機関による評価も必要であると考えられる。そのため、キャリア教育全体を評価するためには、内部評価・外部評価の観点に盛り込む等の工夫が必要である。このことを、仙崎（1985）の先行研究を参考に【図11】「キャリア教育全体の評価の枠組み(例)」としてまとめた。また、内部評価・外部評価の観点の例として【資料3】のようにまとめた。ここでは、その「計画(Plan)」の一部を示す(【図12】)。



【図11】キャリア教育の全体評価の枠組み(例)



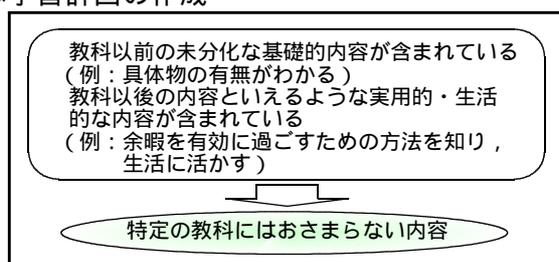
【図12】キャリア教育の評価の観点例の計画の一部

【資料3】参照

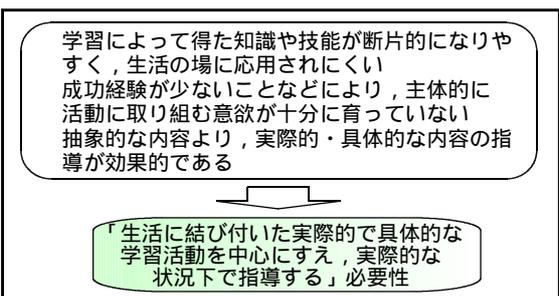
(4) 系統的なキャリア教育を推進するキャリア教育全体学習計画の作成

ア キャリア教育全体学習計画作成の意義

知的障害教育における各教科やその指導には、学問や技芸の体系で組織された通常の学級で扱われる教科の学習の概念とは異なる特徴(【図13】)がある。また、学習指導要領における各教科の名称は、通常の学校のそれと同じであっても、その目標や内容は、知的障害児の学習上の特性等(【図14】)を踏まえて、独自に設定されている。また、知的障害児の教育では、学習指導要領に示されている各教科・領域の内容は必ず習得すべきものとしては位置付けられておらず、児童生徒に経験することが望ましい内容として概括的に示されている。ゆえに、実際の指導にあたっては、各学校において具体的で詳細な指導内容を設定する必要があるとされている。



【図13】知的障害教育における教科の内容の特徴



【図14】知的障害児の学習上の特性等





(ウ) 「キャリア教育学習プログラム (各教科・領域等)」の作成

「キャリア教育学習プログラム (各教科・領域等)」【表9】キャリア発達能力の教育課程への位置付け(例)

とは、キャリア発達能力を教育課程に位置付け(【表9】)、各教科・領域毎の主なねらいを学部段階別に並べ、その学部段階における最終的な達成目標を定めたものである。これによって、各段階における共通の学習目標を明確にし、目的意識をもって学習に取り組む(指導する)ことが可能になるのではないかと考える。

位置付けの力 教科・領域	かか わる	えが く	も と め る	はた らく	生 活 す る	たの し む
国語						
算数・数学						
音楽						
図工・美術						
体育・保健体育						
職業・家庭						
特別活動						
自立活動						
日常生活の指導						
遊びの指導						
生活単元学習						
作業学習(実習)						

前述のとおり、知的障害児を対象とした特別支援学校においては、教育課程と学習内容の位置付けを各学校が独自に工夫して示す必要がある。「キャリア教育学習プログラム (各教科・領域等)」を作成することは、各学部にお

ける学習内容の明確化やその教育課程上の位置付けを明らかにすることに役立つと思われる。

「キャリア教育学習プログラム (各教科・領域等)(例)」【資料6】を【図

		各学部段階毎の教科・領域等の学習のねらいと達成目標						
		ねらい・関連	小学部 (1~3年)	小学部 (4~6年)	中学部	高等部		
教 科 別 指 導	国語	<全体のねらい> 日常生活や社会生活の中で必要な国語の力を育て、自分の気持ちを表現したり、相手の話を理解する能力を育てることで、コミュニケーション能力、自己表現能力、読解力、活用能力等を高める。	ねらい ことばに対する興味・関心をもつ。日常生活に必要な基本的なことばがわかる。	達成目標 ① 簡単な質問に対して意図を示すことができる。 ② 身のまわりの物の名前がわかる。 ③ 自分の気持ちを表現できる。	ねらい 日常生活に必要な基本的なことばがわかり、使うことができる。	達成目標 ① ひらがなで書かれた自分の名前をさがすことができる。 ② 「あいうえお」の音のつながりや、友達や先生といるいろいろな会話ができる。	ねらい 日常生活に必要な基本的なことばの理解を深め、適切に活用することができる。	達成目標 ① 簡単な文章を書いたり読んだりできる。 ② 自分の気持ちを適切に相手に伝えることができる。 ③ テレビのニュース等に興味や関心をもつ。
	算数	<キャリア発達能力との関連> 「かかわる力」 「えがく力」 「たのしむ力」	ねらい 色、形、大きさの違いに気付き、対応したり、集めたりすることができる。	達成目標 ① 「ものなまえ」「どっちがすき」「おはなしをきこう」	ねらい 初歩的な数量や図や形、位置、時計の理解、簡単な計算をすることができる。	達成目標 ① 「ひらがな」「あいさつをしよう」「できなをしをきこう」	ねらい 日常生活に必要な数量や図形に関する理解を深め、生活で活用することができる。	達成目標 ① 「遠足の作文をかこう」「友達の発表をきこう」「ニュース調べ」
	特別活動	<全体のねらい> 日常生活や社会生活の中で必要な数量や図形、計算などに対する興味関心を高め、活用する能力を身に付けること。課題解決能力や作業能力等を高める。	ねらい 色、形、大きさの違いに気付き、対応したり、集めたりすることができる。	達成目標 ① 大きい方をえらぶことができる。 ② 積み木を積んだり、カードを並べたりできる。	ねらい 5までの数の合成・分解ができる。	達成目標 ① 5までの数の合成・分解ができる。 ② 友達に1枚ずつカードを配ることができる。	ねらい 日常生活に必要な数量や図形に関する理解を深め、生活で活用することができる。	達成目標 ① 10までの数を確実に数えることができる。 ② 3桁の数字を読むことができる。

18)のように、各学【図18】キャリア教育学習プログラム (各教科・領域等)(例) 【資料6】参照部の各教科・領域等別に学部におけるねらい、達成目標、題材例を一目でわかるように作成した。これにより、各教科等の学部間の関連性や発展性を把握し、系統的で適切な目標の設定に役立てることができるのではないかと考える。

(I) 児童生徒個々への系統的な指導・支援を行うための手だて

作成したキャリア教育学習プログラムは、年間指導計画や個別の指導計画の作成に生かし、日々の学習等につなげていく必要があると考える。具体的な各指導計画の作成に当たっては、実生活や体験的な活動と関連付けを図る必要があることから、各行事や体験的な活動(生活単元学習や作業学習等)との関連をおさえながら、各教科等の年間指導計画を立てる必要がある。

そこで、系統性を踏まえた各指導計画を作成するためには、学習プログラムを基本にしながら、【図19】に示すような「学部や学年内で系統性・関連性

学校全体(学部間)での系統性を図る手だて ・キャリア教育学習プログラム「枠組み」【資料5】 ・キャリア教育学習プログラム「教科・領域等」【資料6】
学部や学年内で系統性・関連性を図る手だて ・各教科・領域等の年問題材一覧表(学年・学部)【資料7】
学部を超えた題材の系統性・関連性を図る手だて ・題材毎の全体計画(進路学習や学校行事など)【資料8】
指導課題の系統的なステップ化を図る手だて ・指導課題別段階表、系統表【キャリア教育推進ガイドブック 実践・資料編 p31~p35】

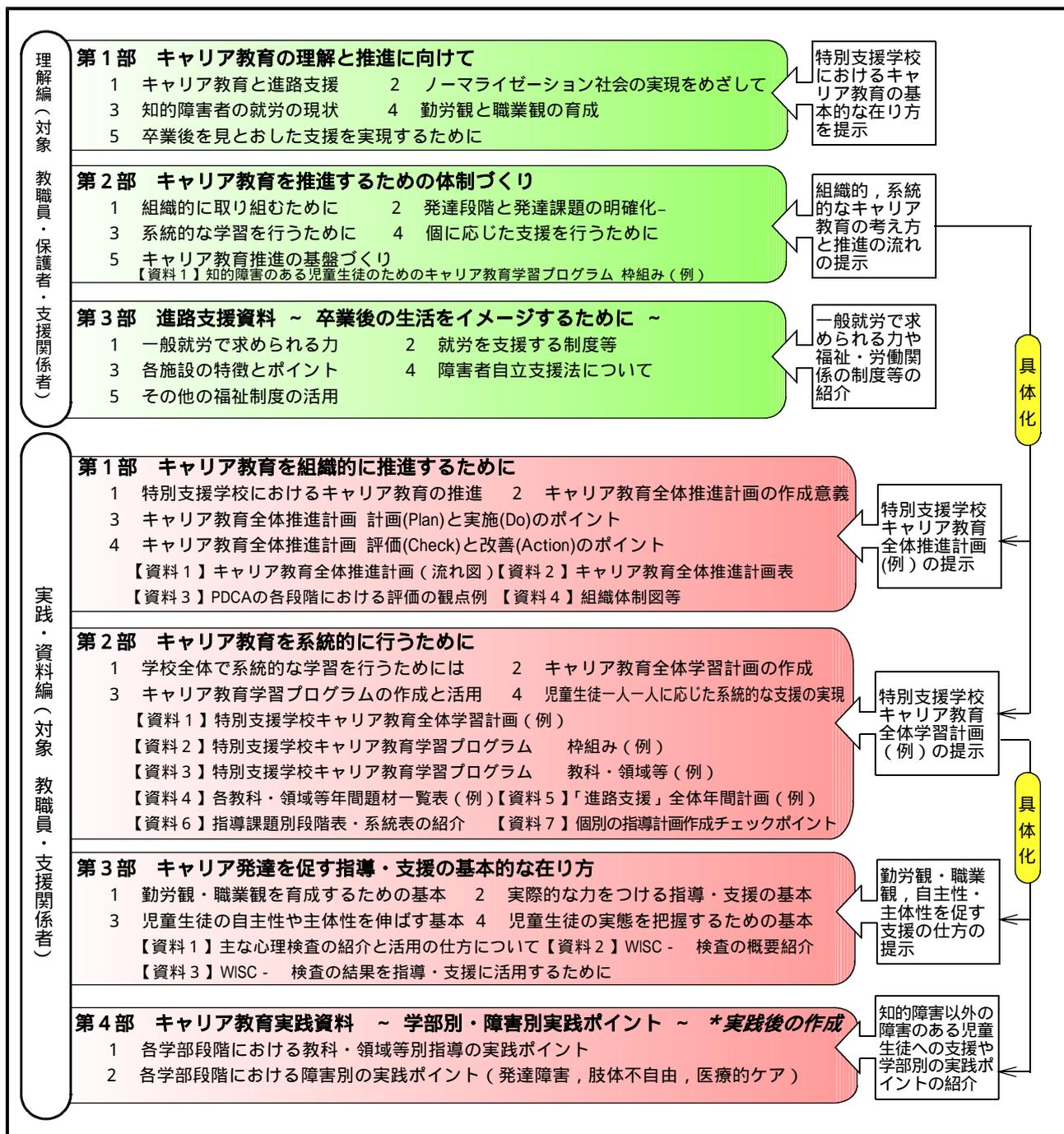
【図19】系統的な指導計画作成の手だてを図る手だて」や「指導課題の系統的なステップ化を図る手だて」等も必要に応じて用意する必要があると考える。

2 知的障害のある児童生徒一人一人の自己実現を図るキャリア教育の在り方の提示

(1) 「キャリア教育推進ガイドブック（実践・資料編）」の作成（【別冊資料2】）

ア キャリア教育推進ガイドブック「理解編」と「実践・資料編」の関係と内容

研究の第一年次で作成した「キャリア教育推進ガイドブック（理解編）」の続編である「キャリア教育推進ガイドブック（実践・資料編）」は、各学校において、実際にキャリア教育を推進する場合の検討資料となることをねらいとして作成している。また、キャリア教育を児童生徒一人一人の実態に応じながら日常の授業の中で行うためのポイントや資料をまとめ、キャリア教育を具体的に行っていくための資料として活用してもらえるように作成した。キャリア教育推進ガイドブック「理解編」と「実践・資料編」の関係と内容について、【図20】に示す。



【図20】キャリア教育推進ガイドブック「理解編」と「実践・資料編」の関係と内容

イ キャリア教育推進ガイドブック「実践・資料編」の内容

前ページ【図20】で示すように、「実践・資料編」は、4部で内容を構成している。ただし、第4部「キャリア教育実践資料」は、第二次実践後に作成することとして考えた。それは、「実践・資料編」の内容として重要なことは、知的障害のある児童生徒の自己実現を図るキャリア教育の在り方を、「キャリア教育全体推進計画」と「キャリア教育全体学習計画」という形で提示することであり、事後調査においては、第3部までの内容で検証したいと考えたからである。次に第1部から第3部までの内容について簡単に紹介する。

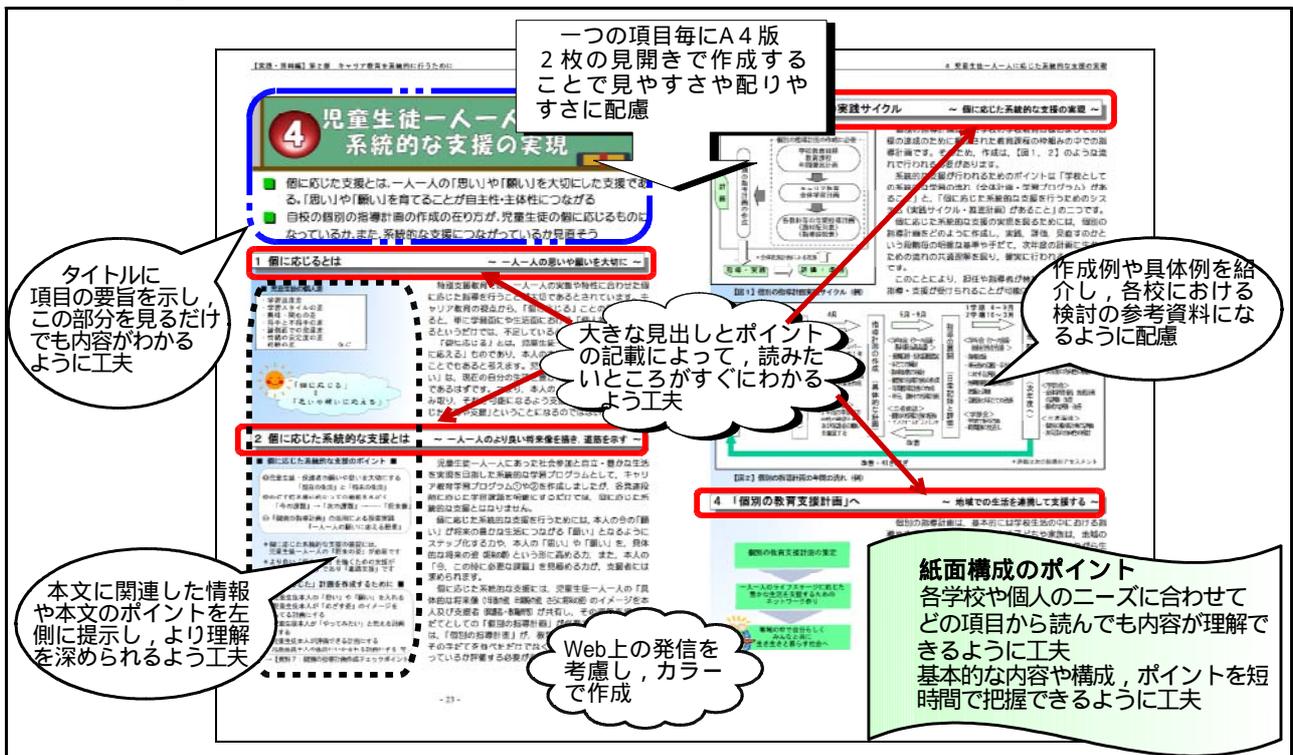
第1部は「キャリア教育を組織的に推進するために」と題し、「キャリア教育全体推進計画」の作成の意義や内容についての理解が図られるように、キャリア教育全体推進計画のPDCAサイクルの各段階に沿って、具体的な作成例を示しながら提示した。

第2部は「キャリア教育を系統的に行うために」と題し、「キャリア教育全体学習計画」の作成の意義や内容についての理解が図られるように、キャリア教育全体学習計画の作成に必要な学習プログラムの作成や年間指導計画、個別の支援計画等について、具体的な作成例を示しながら提示した。

第3部は「キャリア発達を促す指導・支援の基本的な在り方」と題し、児童生徒のキャリア発達を促すための指導・支援の基本的なポイントについての理解が図られるように、知的障害のある児童生徒の特性等をふまえた勤労観・職業観を育成するためのポイント等について、身近な視点と平易な表現でまとめ提示した。

ウ キャリア教育推進ガイドブックの紙面構成上の工夫

キャリア教育推進ガイドブックは、各特別支援学校において、自校の実態や特色を生かしながら、組織的、系統的なキャリア教育の実現を図るための検討資料として活用されることを想定していることから、【図21】に示すような紙面構成上の工夫を行い、各校が必要に応じて活用を図れるように作成した。



【図21】キャリア教育推進ガイドブックの紙面構成上の工夫

## (2) 研究協力校における第二次実践

### ア 実践の目的

「キャリア教育推進ガイドブック（実践・資料編）」の第一次案を用いて，研究協力校におけるキャリア教育に関する理解や意識の向上を図ることをとおして具体的な取組を促す。また研究協力校における授業の参観・体験をとおして，キャリア教育の具体的な実践例を収集し，キャリア教育推進ガイドブックの充実を図る。

### イ 実践計画

実践は9ページの【表7】に示す手だて・内容・ねらいで行う。

### ウ 検証計画

検証は9ページの【表8】に示した内容・方法で行う。

### エ 第二次実践（「実践・資料編」の配付・説明会と授業参観・体験）の概要

(ア) 実施日：平成19年6月27日

(イ) 対象：教諭55名，講師11名，実習教諭2名 計 68名

(ウ) 参加率：小学部14名(63.4%)，中学部15名(83.3%)，高等部13名(46.4%)，計42名(66.7%)

(エ) 次第： 授業参観・体験の依頼 「実践・資料編」第一次案の概要 質問等

(オ) 配布物：キャリア教育推進ガイドブック「理解編」第一次案

(カ) その他：授業参観に関する質問が1件あったが，予定の時間(30分)内に終わることができた。参考文献等を持参し紹介したところ，説明会后に10人程度の教職員が閲覧され，知的障害のある児童生徒に対する勤労観，職業観の育成等についての意見をお話しして下さる方もおり，研究協力校におけるキャリア教育の理解や意識が高まっていることを感じた。宿泊学習等の行事準備ため，説明会の参加者数が，「理解編」の時より少なかった。

(キ) 授業参観・体験：以下の【表10】に示す授業等について参観・体験を行った。

【表10】授業参観・体験の概要

日時	対象学部・学級等	主な参観・体験内容等
6月14日	高等部 農作業班	高等部校内実習，班員構成は1年生中心，畑作業
6月20日	中学部 全作業班	中学部校内実習，木工，カレンダー，紙すき，紙工芸（宿泊学習事前）
7月12日	小学部 通常学級	高学年，自閉症児のみの学級，日常生活の指導，音楽，生活単元学習等
7月18日	小学部 特別学級	中学年，肢体不自由や重度の遅れのある児童，日常生活の指導，特別活動
9月14日	花養バザー	中学部，高等部生徒の販売活動の様子
9月25日	中学部 通常学級	日常生活の指導（個別学習，体力作り），作業学習
9月26日	中学部 特別学級	医療的ケア対象，日常生活の指導，特別活動（クラブ活動）
9月28日	高等部 特別学級等	自閉症生徒の在籍する学級，日常生活の指導，余暇指導，実習事前学習等
10月2日	中学部，高等部	校内実習，高等部「印刷」「窯業」，中学部「紙すき」「カレンダー」

## 3 実践結果の分析と考察

### (1) 事前・事後調査の実施結果と分析

#### ア 事前・事後調査概要

9ページの【表8】検証計画に従って，以下のように事前・事後調査を行った。

(ア) 対象：教諭，講師，実習教諭

(イ) 調査方法：質問紙法

(ウ) 調査項目：検証計画の検証項目に従い次ページ【表11】，【表12】のように作成した。

(I) 実施期間

事前調査：平成19年1月16日～1月23日（「理解編」配付の約1か月前）

事後調査：平成19年9月18日～10月2日（「実践・資料編」配付の約3か月後）

イ 事前・事後調査結果

(7) 調査の結果

調査の結果を【表13】に示す。

本研究の実践は、平成18年度から平成19年度の2年度にわたったため、人事異動等の関係により事前調査と事後調査の対象者が異なる。そのため、事前・事後の結果を人数等で直接比較することは統計学的に正確でないと考えます。

そこで、事前調査結果と事後調査結果の全体的な傾向をそれぞれまとめ、全体の回答の特徴を比較することにより、検証を進めたいと考えます。

なお、平成18年度の実践（「理解編」の配付と説明）については、平成19年度転入職員に対しても、年度初め（平成19年4月18日）に同内容で実施している。

【表11】事前・事後調査 調査項目

事前・事後調査 調査項目	
1 キャリア教育の理解や推進に関すること	(問1) 意味や内容を理解しているか (問2) いつから始めるのが良いと思うか (問3) 学校全体で組織的に推進することをどう思うか
2 勤労観や職業観の育成に関すること	(問4) 日常の授業等で意識しているか (問5) 日常の授業等で取り組んでいるか
3 卒業後を見とおした指導・支援に関すること	(問6) 日常の授業等で意識しているか (問7) 日常の授業等で取り組んでいるか
4 個別の指導計画等への反映状況	(問8) 様々な指導計画を作成するときに、卒業後の生活や目指す姿を踏まえて計画しているか
5 推進のための方法	(問9) キャリア教育をどのように進めていけばよいか

\* 4段階の評定尺度による。(例:A理解している, Bどちらかという理解している, Cどちらかという理解していない, D理解していない)ただし, 問2は選択式, 問9は自由記述とする

【表12】活用状況等に関する調査項目

活用状況等に関する調査項目	
1 キャリア教育推進ガイドブック「理解編」について	(問10) 「理解編」を読んでいるか (問11) 実際の指導・支援どの部分を活用したか 活用した場合は、どのように活用したか
2 キャリア教育推進ガイドブック「実践・資料編」について	(問12) 「実践・資料編」を読んでいるか (問13) 実際の指導・支援どの部分を活用したか 活用した場合は、どのように活用したか
3 ガイドブック全体に対する意見等	(問14) ガイドブックへの意見・要望等について

\* 問10,問12は4段階の評定尺度による。問11,問13は選択式と自由記述。問14は自由記述

【表13】調査の結果

		事前調査（平成18年度職員）						事後調査（平成19年度職員）					
		小学部		中学部		高等部		小学部		中学部		高等部	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
対象数		22		21		26	22		18		28		
回収数		21		21		26	20		16		27		
職名 (人)	教諭	17	80.1	19	90.5	21	80.8	18	90.0	12	75.0	19	70.4
	講師	4	19.9	2	9.5	3	11.5	2	10.0	4	25.0	6	22.2
	実習教諭	0	0.0	0	0.0	2	7.7	0	0.0	0	0.0	2	7.4
担任 (人)	正担任	13	61.9	12	57.1	9	34.6	13	65.0	9	56.3	10	37.0
	副担任	4	19.1	8	38.1	8	30.8	5	25.0	6	37.5	9	33.3
	担任外	4	19.1	1	4.8	9	34.6	2	10.0	1	6.3	8	29.6
転入者							6	30.0	5	31.3	7	25.9	

(1) 事前調査結果（N = 小学部21，中学部21，高等部26，全職員68）

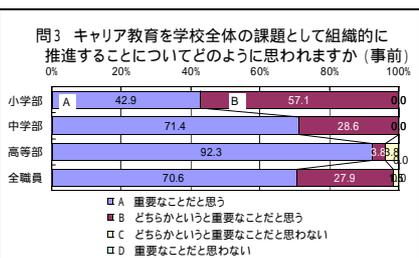
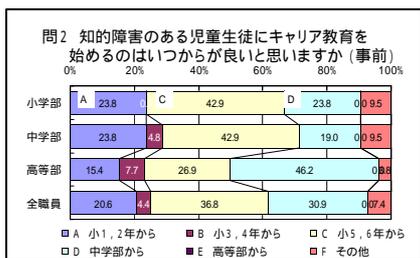
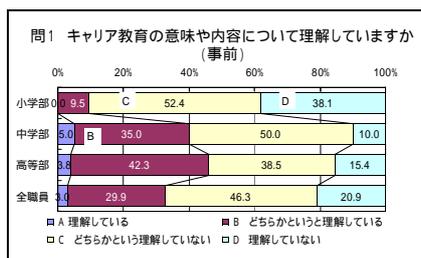
キャリア教育の理解や推進に関すること（問1～問3）

結果を学部別及び全職員の割合でグラフに表したものが次ページ【図22】～【図24】である。

【図22】より、キャリア教育の理解の割合は小学部で低く、全職員では、A「理解している」、B「どちらかという理解している」の肯定的な回答の合計の割合が32.9%であった。

【図23】より、キャリア教育の開始時期には各学部とも回答にばらつきが見られ、全職員では「小5，6年から」が最も多く(36.8%)、次いで「中学部から」(30.9%)であった。【図24】

より、キャリア教育を組織的に推進することについては、小学部、中学部ではA、Bの合計が100%であった。高等部ではAの回答が他学部比べて高く92.3%であった。

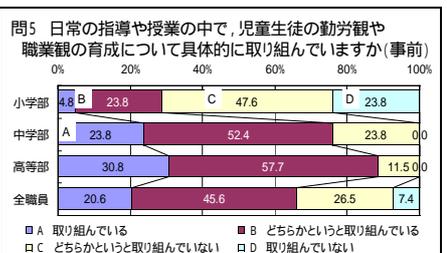
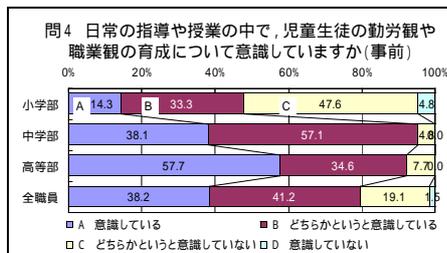


【図22】事前調査「問1」のグラフ 【図23】事前調査「問2」のグラフ 【図24】事前調査「問3」のグラフ

勤労観や職業観の育成に関すること(問4, 問5)

結果を学部別及び全職員の割合でグラフに表したものが、【図25】、【図26】である。

【図25】より、日常の指導や授業の中で児童生徒の勤労観や職業観を意識している割合は、小学部でA、Bの合計が47.6%と低く、中学部・高等部では、それぞれ95.2%、92.3%と高かった。【図26】より、実際に勤労観や職業観の育成に取り組んでいる割合は、小学部でA、Bの合計が28.6%と低く、中学部・高等部では、それぞれ76.2%、88.5%であった。



【図25】事前調査「問4」のグラフ 【図26】事前調査「問5」のグラフ

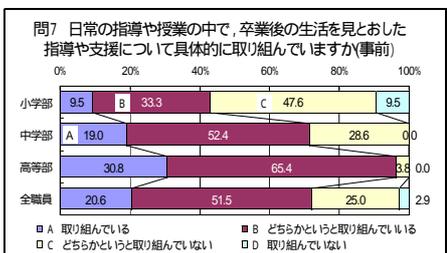
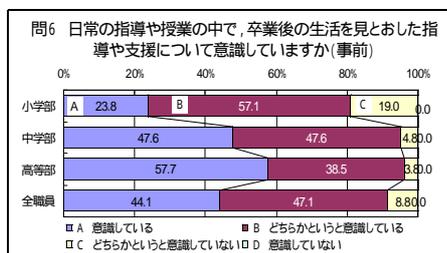
卒業後を見とおした指導・支援に関すること(問6, 問7)

結果を学部別及び全職員の割合でグラフに表したものが、【図27】、【図28】である。

【図27】より、日常の指導や授業の中で、卒業後を見とおした指導や支援を意識している割合は、小学部80.9%、中学部95.2%、高等部96.8%であった。

【図28】より、実際に卒業後を見とおした指導や支援に取り組んでいる割合は、A、Bの合計が小学部では42.8%と半数以下であり、中学部では71.4%、高等部では96.2%と、児童生徒の年齢が高

い学部ほど高くなった。また、全学部で取り組んでいる割合は、意識している割合よりも低いという結果であった。特に小学部においては、取り組んでいないとする回答が23.8%あった。



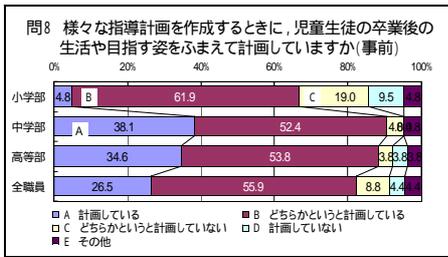
【図27】事前調査「問6」のグラフ 【図28】事前調査「問7」のグラフ

個別の指導計画等への反映状況(問8)

結果を学部別及び全職員の割合でグラフに表したものが、次ページ【図29】である。

個別の指導計画や年間指導計画等を作成するときに、児童生徒の卒業後の生活等をふまえて計画

高い学部ほど高くなった。また、全学部において、取り組んでいる割合は、意識している割合よりも低いという結果であり、児童生徒の年齢の低い学部ほど低かった。



【図29】事前調査「問8」のグラフ

している割合は、A、Bの合計が、小学部65.7%、中学部90.5%、高等部88.4%であり、中学部、高等部でより割合が高かった。

キャリア教育をどのように進めるか(問9：自由記述)

小学部7(33.3%)人、中学部11(52.3%)人、高等部17(65.4%)人から回答があった。内容別に【図30】のように分類し、また代表的な回答を例としてあげる。

\*カッコ内の人数は延べ数

保護者との連携(12人)

- ・親の考えが子どもに反映していることが多いので、保護者との連携もとても重要である
- ・保護者が子どもの進路をどう意識していけるかが一番のポイントだと考えます
- ・本人に対しての他に保護者に対しても早期からの丁寧な情報提供が必要だと思います

具体的な活動を重視する指導・支援(6人)

- ・実習等を通して具体的に学べるように計画していく
- ・子ども達の実態も多様化している現実があるので、机上等だけの学習では難しい面がある

小学部からの指導について(5人)

- ・直接進路とは関わりがなくとも、社会人として必要なことは低学年のうちから繰り返し指導していくことが大切
- ・保護者の意識を高める活動を児童が小学部低学年のうちから始めていけば良いと思う

教職員間の共通理解や引継ぎの充実(5人)

- ・まず教員間の共通理解が必要。学部、学校としての統一した考えが必要であると思います

関係機関との連携(4人)

- ・福祉、労働と連携しながら実際の(実習等)な指導が必要である

学校全体の指導計画の作成や発達段階に応じたマニュアルの必要性(3人)

- ・学校全体の指導計画を立て、各学年に応じたキャリア教育をしていくべきだと思います

【図30】事前調査「問9」の代表的な回答

(ウ) 事前調査結果のまとめ

事前調査の結果から明らかになったことを、調査項目に沿って以下にまとめる。

「キャリア教育の理解や推進に関すること」では、「問1」よりキャリア教育の理解度は、全職員で4割以下と低く、また、児童生徒の年齢が低い学部ほど理解度が低かった。「問2」より、キャリア教育の開始時期には意識のばらつきが見られ、回答が多かったのは、「小5、6年から」と「中学部から」であった。「問3」より、キャリア教育を学校全体として推進することの重要性をほとんどの職員が感じていることがわかった。

「勤労観や職業観の育成に関すること」「卒業後を見とおした指導・支援に関すること」では、同傾向の回答が見られた。即ち、児童生徒の年齢が低い学部ほど意識や取組が低い傾向にあるということである。特に小学部では意識、取組とも低く、他学部との差が大きかった。中学部、高等部では意識、取組ともおおよそ8割以上を超えており高い結果であった。

「個別の指導計画の反映状況」では、全学部で6割を超えており、特に中学部・高等部では約9割と小学部に比べて高い結果であった。

「キャリア教育をどのように進めるかの自由記述」では、保護者との連携の必要性や組織的、系統的なキャリア教育の必要性について前向きな意見が多く寄せられた。

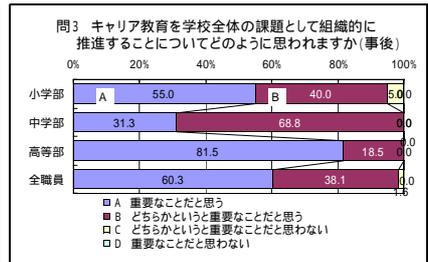
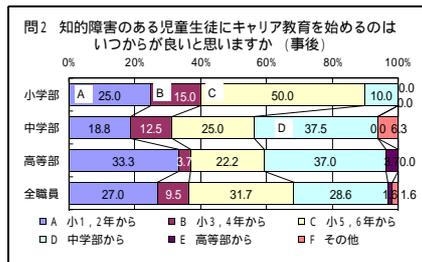
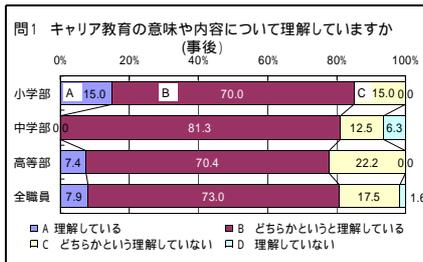
以上のことから、事前調査においては、「学部間における理解、意識、取組の差を解消すること」「勤労観・職業観の育成や卒業後を見とおした指導・支援の実践をさらに進めること」「保護者との連携を進めること」の三点が主な課題であることが明らかになった。

(I) 事後調査結果 (N = 小学部20, 中学部16, 高等部27, 全職員63)

キャリア教育の理解や推進に関すること (問1 ~ 問3)

結果を学部別及び全職員の割合でグラフに表したものが【図31】 ~ 【図33】である。

【図31】より、キャリア教育についての理解の割合をA, Bの合計で見ると、全学部において約90%前後であり学部間の差は見られない。【図32】より、キャリア教育の開始時期は各学部とも、回答にばらつきが見られるが、小学部においては「小5, 6年から」の回答が50.0%であった。全職員平均では、「小5, 6年から」31.7%, 「中学部から」28.6%, 「小1, 2年から」27.0%の順であった。【図33】より、キャリア教育を組織的に推進することについては、中学部, 高等部でA, Bの合計が100%であり、小学部では95.0%と全学部において高かった。



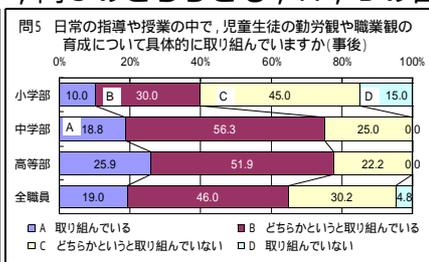
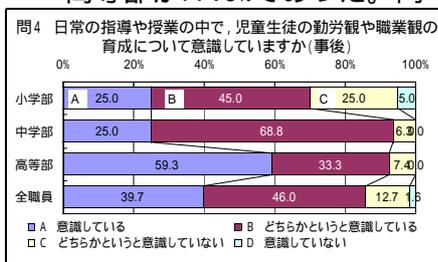
【図31】事後調査「問1」のグラフ 【図32】事後調査「問2」のグラフ 【図33】事後調査「問3」のグラフ

勤労観や職業観の育成に関すること (問4, 問5)

結果を学部別及び全職員の割合でグラフに表したものが【図34】、【図35】である。

【図34】より、日常の指導や授業の中で児童生徒の勤労観や職業観を意識している割合は、A, Bの合計で、小学部70.0%, 中学部93.8%, 高等部92.6%であった。【図35】より、実際に勤労観や職業観の育成に取り組んでいる割合は、A, Bの合計が小学部が40.0%, 中学部が75.0%, 高等部が77.8%であった。問4, 問5のどちらとも、A, Bの合計の値は小学部の方が低く、特

にも実際に取り組んでいる割合では、30ポイント以上の差が見られた。また、小学部でDと回答した職員3名から「児童の状態(医療的ケア)から」という回答があった。



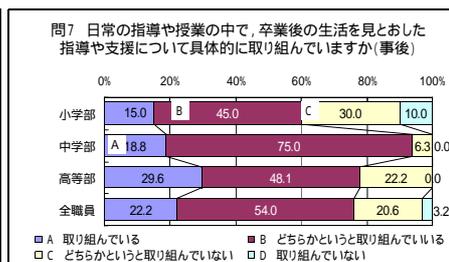
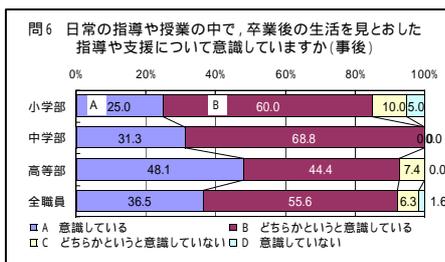
【図34】事後調査「問4」のグラフ 【図35】事後調査「問5」のグラフ

卒業後を見通した指導・支援に関すること (問6, 問7)

結果を学部別及び全職員の割合でグラフに表したものが【図36】、【図37】である。

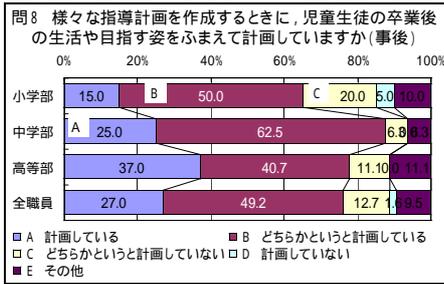
【図36】より、日常の指導や授業の中で、卒業後を見とおした指導や支援を意識している割合は、小学部85.0%, 中学部100%, 高等部92.6%であった。

【図37】より、実際に卒業後を見とおした指導・支援に取り組んでいる割合は、小学部60.0%, 中学部93.8%, 高等部77.8%であり、全職員平均では76.4%であった。



【図36】事後調査「問6」のグラフ 【図37】事後調査「問7」のグラフ

個別の指導計画等への反映状況（問8）



結果を学部別及び全職員の割合でグラフに表したものが、【図38】である。

この図より、個別の指導計画や年間指導計画等を作成するときに、児童生徒の卒業後の生活等をふまえて計画している割合は、A、Bの合計で、小学部65.0%、中学部87.5%、高等部77.7%、全職員平均では、76.8%であった。「E その他」は「計画する立場にない」という回答であり、Eの回答を除いて再計算を行うと全職員平均A、Bの合計は84.2%となる。

【図38】事後調査「問8」のグラフ

キャリア教育をどのように進めるか（問9：自由記述）

小学部3人(15.0%)、中学部11人(68.8%)、高等部14人(51.9%)から回答があった。内容別に【図39】のように分類し、また代表的な回答を例としてあげる。

\* カッコ内の人数は延べ数である

児童生徒への指導について(10人)

- ・教える内容を理解できるものにし、細かなステップをつけ指導していく
- ・「何のために働くか、なぜ働くか」をじっくり考えさせたい
- ・授業や生活の中で子どもにわかりやすく具体的に指導していき、繰り返して取り組んでいけばよいと思う

保護者との連携(9人)

- ・保護者と話し合っ一緒に考えていかなければ成果が期待できないと思う
- ・個別の指導計画や教育支援計画にキャリア教育を位置付け小学部段階から保護者に説明することが大切

実際の活動を重視する指導・支援(8人)

- ・指導の内容も生徒、家庭の状況を踏まえて、実際の内容を積極的に取り入れていくことが望ましい
- ・生活の中で場面をとらえて行う

キャリア教育は日常の指導の中で行う(8人)

- ・まずは自分の身のまわりのことができるようになること
- ・学校生活で目指すところは全て卒業後の生活に有効に活かせる内容であって、教育の根底にあるものです

教職員の意識や理解の向上(4人)

- ・担当が替わったり、担当者が複数になったとき、同じ視点や目標や保護者との連携がとれるよう再確認や手だての工夫が求められています

小学部からの系統的な指導(4人)

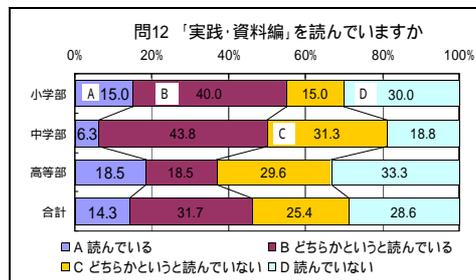
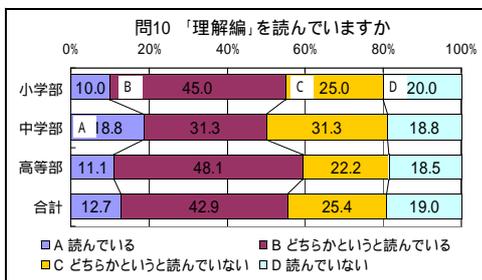
- ・小学部のうちから、進路を意識し、さまざまな学習において、進路に結びつけながら、勉強していくことが必要だと思う

その他(2人)

- ・社会のあり方、自治体のあり方等で、学校のミッションは方向付けされると思う

【図39】事後調査「問9」の代表的な回答

ガイドブックの活用状況等に関すること（問10～問14：事後調査のみ）



問10と問12の結果を学部別及び全職員の割合でグラフに表したものが、【図40】、【図41】である。

【図40】「理解編」を読んでいるか

【図41】「実践・資料編」を読んでいるか

「どちらかという読んでいない」と答えた教職員であっても、

問11や問13で実際に指導や支援に活用している場合が見られることから、「読んでいない」と答えた職員以外を「読んでいる」ととらえることとした。

【図40】より「理解編」については、学部間に大きな差はなく、全学部の合計でも81.0%の職員が読んでいることがわかる。【図41】より「実践・資料編」については、学部による差が多少見ら

れるものの、約7割～8割の職員が読んでいることがわかる。読んでいない理由については、各ガイドブックとも、「時間がない」「きっかけがない」という回答がほとんどであった。

問11と問13では、各ガイドブックにおいて「実際の支援や指導に活用したか」について質問した。問12と問14では、活用した場合に、各ガイドブックにおいて、「どの部分をどのように活用したか」について質問した。問11～14の結果についてまとめたものが【表14】である。

【表14】ガイドブックの活用状況結果

	「理 解 編」	「実 践 ・ 資 料 編」
指導や支援に活用したか	42人(66.6%)	28人(44.4%)
どのように活用したか *( )は延べ人数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者面談で利用(10)</li> <li>・作業学習の時間の中で(3)</li> <li>・日常の指導の中で(4)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の指導に当たって、教師間で話し合いをもったときに使用した</li> <li>・評価、指導計画に活用した</li> <li>・他教科の年計を作成するとき参考にした</li> <li>・地域支援センターの相談に活用</li> <li>・日常の指導の中で</li> </ul>
活用の多かった項目 *( )は延べ人数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者自立支援法について(18)</li> <li>・一般就労で求められる力(17)</li> <li>・個に応じた支援を行うために(16)</li> <li>・勤労観と職業観の育成(14)</li> <li>・卒業後を見とおした支援を実現するために(14)</li> <li>・発達段階と発達課題の明確化(13)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際のな力をつける指導・支援の基本(10)</li> <li>・児童生徒の実態を把握するための基本(9)</li> <li>・キャリア教育全体推進計画 計画(Plan)と改善(Action)のポイント(6)</li> <li>・学校全体で系統的な学習を行うためには(6)</li> <li>・勤労観・職業観を育成するための基本(6)</li> <li>・児童生徒の自主性や主体性を伸ばす基本(6)</li> </ul>

実際に活用した項目を調査した結果、「理解編」「実践・資料編」とも全ての項目において活用が見られた。【表14】には、活用の多かった項目をそれぞれまとめた。

- ・勉強になった
- ・今後さらに読みたい
- ・職員間で話し合う糸口になった
- ・キャリア教育が職員一人一人の意識を同じものにするのに役立つと確信した
- ・保護者に提示するために文字量を減らしてほしい
- ・キャリア教育ということばに違和感がある

【図42】ガイドブックに対する自由記述

問15は、キャリア教育推進ガイドブックについて

の意見等の自由記述として設定し、9人から回答があった。主な回答について【図42】に示す。

#### (オ) 事後調査結果のまとめ

事後調査の結果から明らかになったことを、調査項目に沿って以下にまとめる。

「キャリア教育の理解や推進に関すること」では、「問1」よりキャリア教育の理解度は、全学部で9割前後と高く、学部間の差も見られなかった。「問2」より、キャリア教育の開始時期には意識のばらつきが見られ、特に「小5,6年から」、「中学部から」、「小1,2年から」でそれぞれ約3割ずつと結果が別れた。「問3」より、キャリア教育を学校全体として推進することの重要性をほとんどの職員が感じていることがわかった。

「勤労観や職業観の育成に関すること」では、意識、取組とも中学部、高等部でほぼ同じ結果を示した。小学部では中学部、高等部よりもA, Bの合計の割合は少なかった。

「卒業後を見とおした指導・支援に関すること」では、意識面では、各学部の間には差はほとんど見られず、A, Bの合計が全学部において8割以上となった。取組では、小学部と中学部、高等部の間に差は見られるものの、全体では8割近くと高い値であった。

「個別の指導計画等への反映状況」では、全学部で6割を超えており、特に中学部では約9割と小学部、高等部と比べて高い結果であった。

「キャリア教育をどのように進めるかの自由記述」では、児童生徒へのキャリア教育の観点に立った具体的な指導や支援の方法等に関することが様々な表現で多く寄せられ、次いで、保護者との連携の必要性や組織的、系統的なキャリア教育の進め方等についての意見が寄せられた。

「ガイドブックの活用状況等に関すること」では、「理解編」は約8割の職員に読まれており、6割以上の職員が実際の指導や支援に活用し、主に保護者面談で活用されているという結果であった。「実践・資料編」は約7割の職員に読まれており、4割以上の職員が実際の指導や支援に活用しており、活用の方法は「話し合いの資料」「指導・評価」等多岐にわたっていた。また、どちらのガイドブックも全ての項目で活用が見られた。

## (2) 実践結果の考察

事前・事後調査の結果のまとめから、検証項目に沿って考察を行う。

### ア 「キャリア教育の理解と推進に関すること」について

キャリア教育への理解度は、実践の結果、学部間の理解の差が解消され、全職員平均の理解の割合も9割を超えていることから、ガイドブックがキャリア教育の理解の促進に役立ったと考えられる。

キャリア教育の開始時期については、事後調査では「小1, 2年から」の回答が増え、「小5, 6年から」「中学部から」とほぼ同数になった。このことから、小学部からの体系的なキャリア教育についての理解が高まったと考えられる。一方、小学校高学年以降でも良いという意識も依然として高いことから、キャリア教育の内容についてのとらえの意識の差については十分解消できなかったと考える。これは、キャリア教育の内容として、日常生活動作や基本的な生活習慣に関する指導も含んで考えるということを十分に伝えることができていなかったためと、障害の重度化により、キャリア教育や進路という言葉が、実際の児童の状態からイメージしづらいものがあつたためではないかと考える。この解決に向けては、ガイドブックの中で重度の障害のある児童生徒へのキャリア教育について、さらに具体的に述べる必要があると思われる。

キャリア教育を学校全体で推進することの重要性については、事前・事後調査とも全学部において意識が高く、キャリア教育が特別支援学校においても重要な課題であると意識されていると考えられる。

### イ 「勤労観や職業観の育成に関すること」について

中学部、高等部における意識面では事前調査と事後調査の結果とも9割以上と大きな違いは見られなかった。これは、中学部、高等部においては現に作業学習や実習に取り組んでおり、その中で勤労観や職業観を身に付けさせたいと考えている職員が多いからではないかと考える。一方、小学部においては、事前調査結果の割合が約5割と、中学部や高等部に比べて大きく下回っていたが、事後調査においては、約7割まで意識の向上が見られ、ガイドブックが意識の向上に役立ったことが考えられる。

具体的な取組の状況を問う設問では、事前調査では、中学部、高等部で約8～9割と高い結果であった。事後調査においては中学部は違いが見られなかったが、高等部においては、わずかながら取組が減少した。これは、ガイドブックによって、さらに勤労観や職業観を育成する必要を感じた職員が増えたからではないかと考えられ、問9の自由記述の中で勤労観や職業観の育成に関する記述が増えていることから、取組の質的な面での意識の向上が図られたのではないかと考える。一方、小学部においては、事前調査の取組状況は3割以下であったのが、事後調査では4割に増加した。これはガイドブックによって、意識が向上し、具体的な取組が増加したと考えられるが、依然、中学部、高等部との差があることから、さらに取組を進めるための手だてが必要であると思われる。

#### ウ 「 卒業後を見通した指導・支援に関すること」について

意識面については、全学部において、事前・事後調査との結果に大きな差は見られず、学部間の差も見られなかった。これは、特別支援学校においては個別の教育支援計画の策定が行われているためと考えられ、小学部においても卒業後の生活等を意識している職員が多いためと思われる。また、 の職業観や勤労観の育成に関することよりも、事前・事後調査とも各学部の意識が高く、特に小学部においては、30ポイント以上の違いが見られたことから、個別の教育支援計画への取組が結果に関係したと考えられる。

一方、取組面については、事前調査では、児童生徒の年齢が高い学部ほど取り組んでいる割合が高く、学部間に明らかな差が見られたが、事後調査では、小学部、中学部での取組が増え、高等部で減ったことで、学部間の差は減少した。これは、小学部、中学部においては、ガイドブックによって、具体的な取組が促されたためではないかと考えられる。高等部においては、職業観や勤労観に関することの取組と同様の理由が考えられる。

以上のことから、ガイドブックによって、学部間の取組の差は減ったものの、さらに取組を進めるための手だてが必要であると考えられる。

#### エ 「 個別の指導計画等への反映状況」について

事前調査では小学部と中学部、高等部との間に約20ポイントの差があり、中学部、高等部では高い割合（約9割）で取り組まれていた。事後調査では、小学部での取組がわずかながら増加し、中学部、高等部での取組がわずかながら減少したことで、学部間の差は減少した。これは、前述のように個別の教育支援計画の策定が行われていることで、卒業後の生活を見とおした計画の作成が以前から意識されていたことと、ガイドブックによって理解が深まったためと考える。

#### オ 「 キャリア教育をどのように進めるかの自由記述」について

事前調査では、保護者との連携や学校全体の共通理解や引き継ぎなど、どちらかという和学校組織全体としての課題をあげる記述が多かったが、事後調査では、児童生徒に対するキャリア教育の具体的な支援内容や方法といった日常的で具体的な記述が多かった。これは、教職員のキャリア教育に対する理解が深まり、意識が向上したことで、キャリア教育を教職員一人一人が身近な問題としてとらえ、児童生徒に対する指導や支援について振り返る機会に、ガイドブックが役立ったためではないかと考える。

#### カ 「 ガイドブックの活用状況等に関すること」について

「理解編」の方が、読んでいる教職員の割合、実際の指導や支援への活用ともに高い傾向にあった。これは、「理解編」の方を先に配布したことから、時間的に読んで頂いたり、活用して頂く機会が多かったためではないかと思われる。また、ガイドブックを読んでいないと答えた職員の理由は、「時間がない」「きっかけがなかった」であったことから、ガイドブックを読んでもらうためには、キャリア教育に対する関心を高めるための手だても必要であると考えられる。

ガイドブックを実際の指導や支援に活用したかという設問では、どちらのガイドブックも全ての項目で活用されていた。これは、各教職員がキャリア教育を児童生徒の指導・支援に必要なものとしてとらえたためと思われる、ガイドブックがキャリア教育の理解と実践に役立ったと考える。また、活用の方法についても、「理解編」では保護者への活用が多く行われていたこと、「実践・資料編」では、職員間の話し合いの材料や指導計画の作成等に用いられていたことから、作成の意図に沿った活用が図られており、ガイドブックの内容が適切であったと考える。

#### 4 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的，系統的なキャリア教育を推進するための手だてのまとめ

本年度は，昨年度に立案した基本構想と手だての構想に基づいて，小学部から高等部までの一貫した校内の組織的，系統的な全体計画の作成を行った。また，各校が自校の実態に合わせた全体計画を作成するための手順や，教職員や保護者等のキャリア教育に対する共通理解を促すために「特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック」を作成し，組織的，系統的なキャリア教育の在り方について提示した。そして，研究協力校における実践の中で，ガイドブックを充実させるための資料の収集と検証を行った。

ここでは，研究協力校における実践結果の分析と考察により，ガイドブックの活用による成果と課題をまとめ，さらに，課題を解決するためのガイドブックの充実の方向性についてまとめる。

##### (1) 特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック「理解編」「実践・資料編」の成果と課題 実践結果の分析と考察から，ガイドブックの活用による成果と課題についてまとめる。

###### ア 成果

- ・キャリア教育の理解の向上に役立った
- ・学部間の意識の違いの解消に役立ち，校内の共通理解の促進に役立った
- ・児童生徒への指導や支援を振り返る機会として役立った
- ・キャリア教育の具体的な実践を促すことに役立った
- ・保護者への理解を促す資料として役立った

###### イ 課題

- ・さらに理解や取組を向上させるための工夫が必要である
- ・キャリア教育への関心を高めるための工夫や活用しやすくするための工夫が必要である

##### (2) 特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブックの充実

実践の結果によって出された課題に対して，研究協力校で収集した資料を参考にしながら，以下の内容をガイドブック（「実践・資料編」）に資料として盛り込むことで充実を図りたいと考える。

###### ア さらに理解や取組を向上させるための工夫に関すること

- ・各学部段階におけるキャリア教育の実践ポイントについて，実践中に収集した資料を参考にしながら具体的に示す
- ・医療的ケア，発達障害（LDやADHD等），自閉症等の各障害別のキャリア教育実践ポイントについて，実践中に収集した資料を参考にしながら具体的に示す

###### イ キャリア教育への関心を高めるための工夫や活用しやすくするための工夫に関すること

- ・「ガイドブックダイジェスト版の作成」…ガイドブックのポイントと活用方法等を紹介する
- ・「保護者向け啓発リーフレットの作成」…キャリア教育の概要を簡単にまとめる
- ・「保護者配布用資料の作成」…キャリア教育に関する資料の部分を配布しやすくまとめる
- ・「児童生徒向け資料の作成」…就労に必要な力や自立支援法等の情報をわかりやすくまとめる

以上のことから，さらに充実を図る必要はあるものの，本研究で作成したキャリア教育推進ガイドブックは，組織的，系統的なキャリア教育の理解や推進を図るために効果があり，知的障害のある児童生徒の社会参加と自立に役立つという見通しをもつことができた。

## 研究のまとめ

本研究は、知的障害のある児童生徒の社会参加と自立を促すため、キャリア教育の視点に基づいた小学部から高等部までの一貫した校内の組織的、系統的な全体計画を作成し、卒業後の生活を見通した支援の在り方を提示することをめざしたものである。

2年次研究の1年目である昨年度は、先行研究や文献から得た資料を基に知的障害のある児童生徒にとってのキャリア教育の意義や内容等を検討し、県内特別支援学校（知的）の実態調査をとおして、組織的、系統的な全体計画の構想や手だての構想を立案した。

2年目である今年度は、立案した構想を基に、組織的、系統的な全体計画とキャリア教育推進ガイドブック「実践・資料編」を作成し、研究協力校における実践と検証を行い、卒業後の生活を見とおした支援の在り方を提示した。

2年間の研究の成果と課題について、以下のようにまとめる。

### 1 研究の成果

- (1) 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的、系統的なキャリア教育の在り方に関する基本的な考え方の検討

先行研究や文献により、知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における卒業後の生活の状況や課題をまとめ、特別支援学校における組織的、系統的なキャリア教育推進の意義や知的障害のある児童生徒にとってのキャリア教育や勤労観・職業観のとらえとその内容、そして勤労観・職業観を育むためのキャリア発達能力について示すことができた。

- (2) 県内の特別支援学校（知的）におけるキャリア教育に関する実態調査の分析と考察

実態調査の分析と考察をとおして、県内の特別支援学校におけるキャリア教育の実態や課題を明らかにすることができた。また、組織的、系統的にキャリア教育を推進するための観点や留意点を明らかにすることができた。

- (3) 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的、系統的なキャリア教育の在り方に関する基本構想の立案

基本的な考え方と実態調査で明らかになった推進するための観点や留意点を基に、知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的、系統的なキャリア教育の在り方を示し、キャリア教育を推進するための流れの基本構想をまとめることができた。

- (4) 小学部から高等部までの一貫した校内の組織的、系統的な全体計画と手だての試案の構想の立案と第一次実践

基本的な考え方と基本構想を基に、小学部から高等部までの一貫した校内の組織的、系統的な全体計画の構想と、手だての試案としてキャリア教育推進ガイドブックの全体構想を立案し、キャリア教育推進ガイドブック「理解編」を作成・提示することができた。

- (5) 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的、系統的なキャリア教育を推進するための全体計画の作成

校内におけるキャリア教育の組織的な位置付けや推進の流れを明らかにするキャリア教育全体推進計画の作成と小学部から高等部までの一貫した学習の中で児童生徒のキャリア発達能力を系統的に育成するためのキャリア教育全体学習計画を作成し、知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校における組織的、系統的なキャリア教育の在り方を提示することができた。

- (6) 知的障害のある児童生徒一人一人の自己実現を図るキャリア教育の在り方の提示と第二次実践

キャリア教育推進ガイドブック「実践・資料編」の作成をとおして、知的障害のある児童生徒

一人一人の自己実現を図るキャリア教育の在り方の提示することができた。第二次実践により、ガイドブックの有効性が確認され、特別支援学校のキャリア教育の推進に資することができた。

## 2 今後の課題

- (1) 各学校において、本研究で作成した「キャリア教育推進ガイドブック」の活用が図られるように、内容の充実や活用のしやすさの工夫を行う必要があると共に、本ガイドブックの普及・活用の方途について検討する必要がある。
- (2) 今後の国や県等の施策や法制度等の改正に合わせて、「キャリア教育推進ガイドブック」の内容や表現等を見直していく必要がある。

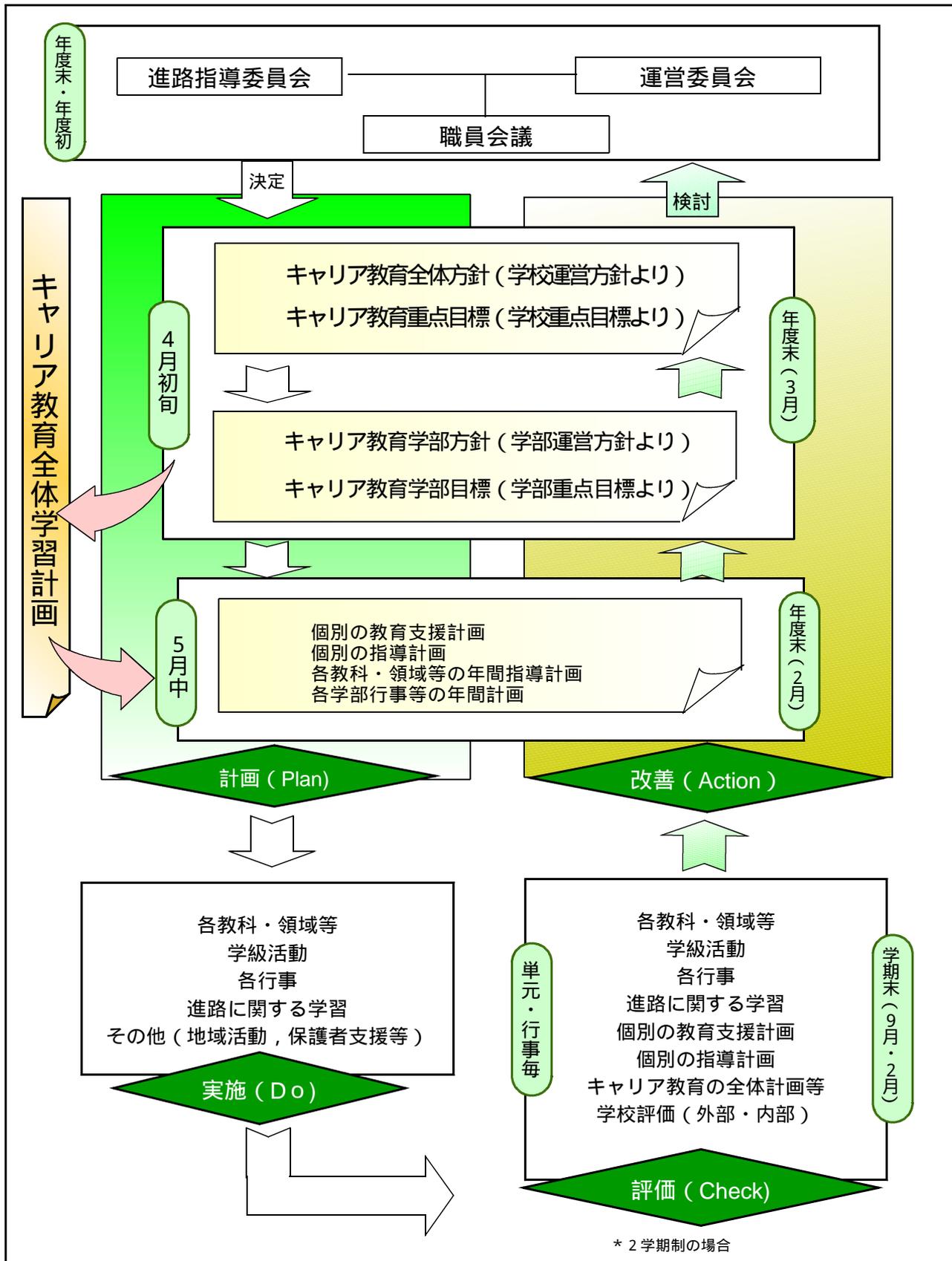
おわりに

この研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力校の先生方、児童生徒の皆様、県内特別支援学校（知的）の進路指導主事、各学部主事の皆様に心からお礼を申し上げます。

## 【参考文献】

- 上田敏(2005)、「ICFの理解と活用」, 萌文社
- 海津亜希子(2007)、「個別の指導計画作成ハンドブック LD等, 学習のつまづきへのハイクオリティな支援」, 日本文化科学社
- 上岡一世(1998)、「就労自立を果たす指導法 働くことの指導編」, 明治図書
- 亀井浩明・鹿嶋研之助(2006)、「小中学校のキャリア教育実践プログラム」, ぎょうせい
- 小出進(2002)、「本人の思いにそった就労支援」, 『障害のある人を支える』(現代人の心の支援シリーズ第5巻「障害児」), 慶應義塾大学出版
- 坂本洋一(2006)、「よくわかる障害者自立支援法」, 中央法規
- 塩見洋介(2006)、「障害者自立支援法 活用の手引き」, かもがわ出版
- 仙崎武(1985)、「進路指導の評価の方法」, (財)日本進路指導協会
- 全国知的障害養護学校長会編集(2002)、「私たちの進路」, ニチブン
- 全国特殊学校長会編集(2005)、「盲・聾・養護学校における『個別の教育支援計画』ビジュアル版」, ジアース教育新社
- 手塚直樹編著(1998)、「知的障害児・者の生活と援助」, 一橋出版
- 独立行政法人国立特殊教育総合研究所(2005)、「知的障害養護学校における職業教育と就労支援に関する研究」
- 日経連障害者雇用相談室編著(1998)、「障害者雇用マニュアル」, 日経連出版部
- 沼津市立原東小学校, 三村隆男共著(2005)、「キャリア教育が小学校を変える!」, 実業之日本社
- 前川岳詩(2005)、「将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる小学校キャリア教育の推進に関する研究」, 岩手県立総合教育センター
- 三村隆男(2004)、「キャリア教育入門」, 実業之日本社
- 門田光司編著(2003)、「知的障害・自閉症の方へケアマネジメント入門」, 中央法規
- 依田隆男(2003)、「知的障害者の意思を生かした就業支援のあり方」, 『第11回職業リハビリテーション研究発表会 発表論文集』, 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
- 吉田辰雄編著(2006)、「最新 生徒指導・進路指導論 ガイダンスとキャリア教育の理論と実際」, 図書文化

【資料1】キャリア教育全体推進計画（流れ図）



【資料2】キャリア教育全体推進計画表（担当・検討の場・時期・ねらい等）

段階	項目	担当	検討の場	時期	各段階における主なねらいや内容
計画 (Plan)	キャリア教育全体方針 キャリア教育重点目標	校長 副校長	学部会 校務部会 進路指導委員会 職員会議	前年度末から 年度初め	前年度の反省（調整行動）を受け、新年度メンバーで確認・検討を行う 学校運営方針の中に明確に位置付け、自校のキャリア教育の在り方と今年度の重点目標の共通理解を図る
	キャリア教育学部方針 キャリア教育学部目標	学部長	学部会 進路指導委員会 職員会議	前年度末から 年度初め	前年度の反省（調整行動）を受け、新年度メンバーで確認・検討を行う。学部としての方針を明確にし、具体的な教育活動につながるよう、他の計画との関連を図る
	個別の教育支援計画	担任(コーディネーター等)	ケース会議、学年会・支援会議	5月末まで	児童生徒一人一人を取り巻く関係機関と連携して、支援の方針を定める
	個別の指導計画	担任	ケース会議 学年会・面談	5月末まで	個別の教育支援計画における支援の目標を教育課程に沿った具体的な指導目標や手だてとして定める
	個別の移行支援計画	該当担任	ケース会議、学年会・支援会議	作成開始：高等部3年	特別支援学校を卒業後、社会生活への円滑な移行を図るため、関係機関と連携して支援の在り方や方法を定める
	各教科・領域等の年間指導計画	各教科等 担当者	授業担当者会議 学年会、学部会	5月中旬頃まで	キャリア教育全体学習計画等をもとに各教科・領域におけるキャリア教育の内容や時期を明らかにする
	各学部行事等の年間指導計画	各行事等 担当者	学年会、学部会 担当校務分掌	5月中旬頃まで	キャリア教育全体学習計画等をもとに各行事等におけるキャリア教育の内容等を明らかにする
実施 (Do)	各教科・領域等における指導・支援	各教科等 担当者	授業担当者会議、 ケース会議	通年、随時	各教科・領域等の中でねらっているキャリア教育の内容を適切に行い、児童生徒のキャリア発達を促す
	学級における指導・支援 (キャリアカウンセリング含)	担任	ケース会議、学年会	通年、随時	学級活動の中でねらっているキャリア教育の内容を適切に行い、児童生徒のキャリア発達を促す
	行事等における指導・支援	各行事等 担当者	学部会、担当校務 分掌、職員会議	通年、随時	各行事等の中でねらっているキャリア教育の内容が適切に行われるようにする
	進路に関する学習における指導・支援	担任、進路 指導担当	学年会、ケース 会議、分掌部会	通年、随時	進路に関する学習が各学部、各学年等において、ねらいどおりに行われるようにする
	その他の指導・支援（地域支援、 保護者支援、地域との連携など）	各担当者	分掌部会、学部 会、職員会議	通年、随時	キャリア教育の基盤の一つである保護者や地域との連携がねらいどおりに行われるようにする
評価 (Check)	各教科・領域等における指導・支援	各教科担 当者	授業担当者会議、 ケース会議	授業毎、 学期毎	指導過程、指導方法、教材や手だてが有効であったか、児童生徒のキャリア能力が向上したかなど
	学級における指導・支援 (キャリアカウンセリング含)	担任	ケース会議、学年会	随時、 学期毎	学級集団として、その生活年齢や発達段階に求められるキャリア能力を身に付けることができたかなど
	行事等における指導・支援	各行事担 当者	担当校務分掌、学 部会、職員会議	行事毎 年度末	各行事において育成が求められるキャリア能力が児童生徒一人一人のねらいどおりに達成することができたかなど
	進路に関する学習における指導・支援	担任、進路 指導担当	学年会、ケース 会議、職員会議	学習毎、学期 末、年度末	進路や職業等に関する学習が計画通り行われ、児童生徒の卒業後の生活に対する興味を高めることができたかなど
	個別の教育支援計画、個別の指導 計画に関すること	担任	ケース会議、学年会、 面談、支援会議	学期末 年度末	計画通り指導・支援を行い、目標を達成することができたか、計画の作成や策定にかかわる手順は適切かなど
	キャリア教育の全体計画や推進に 関すること	校長、副校 長、各主事 ・主任等	学部会、校務部 会、進路指導委 員会、職員会議	学期末 年度末	自校のキャリア教育を総合的、全体的に振り返り、目標、方針、組織、運営、環境条件、成果と課題などを明らかにする
	学校評価に関すること (内部評価・外部評価)	校長、副 校長他	学校評議会 運営委員会等	実施時期	自校のキャリア教育の取り組みを学校評価の中に位置付け、客観的な視野で総合的に評価を行う
改善 (Action)	キャリア教育全体方針 キャリア教育重点目標	校長、 副校長	学部会 校務部会 進路指導委員会 職員会議	年度末	1年間のキャリア教育活動を総括し、学校教育目標の達成に向けて不足している部分について、どのように対応するべきかを検討し、次年度の全体方針案、重点目標案に反映させる
	キャリア教育学部方針 キャリア教育学部目標	学部長	学部会 進路指導委員会 職員会議	年度末	1年間の学部におけるキャリア教育全体を振り返り、方針や目標の達成できなかった点の原因と対策を明らかにし、次年度の学部方針及び目標を改善する
	個別の教育支援計画	担任(コーディネーター等)	ケース会議、学年会・支援会議	年度末	1年間の支援を振り返り、目指す姿の実現に向けて、各機関の役割や支援内容を見直し、次年度の方針案を検討する
	個別の指導計画	担任	ケース会議 学年会・面談	学期末 年度末	学期や年間のキャリア教育の成果と課題をまとめ、次学期や次年度の方向性、具体的な目標案を検討する
	個別の移行支援計画	該当担任	ケース会議、学年会・支援会議	年度末	移行支援計画の策定における課題をまとめ、次年度以降の計画の立案や連携に役立つようにする
	各教科・領域等の年間指導計画	各教科等 担当者	授業担当者会議 学年会、学部会	学期末、 年度末	計画どおり、指導・支援を行うことができたかを振り返り、次年度の計画の作成に役立つようにする
	各学部行事等の年間指導計画	各行事等 担当者	担当校務分掌、学 部会、職員会議	年度末	評価をもとに各行事におけるキャリア能力の位置付けや手だて等を見直し、次年度の計画に役立つようにする

### 【資料3】P D C Aの各段階における評価の観点例

<p><b>1 キャリア教育の全体的な計画に関する評価の観点の例 (Plan)</b></p> <p>(1)学校の教育方針や教育目標に即して、キャリア教育の目標が立てられ、教育活動全体を通してその目標の具現化が図られているか</p> <p>(2)キャリア教育の組織が、地域、学校、教育課程、教職員などの実情を踏まえて適切につくられているか</p> <p>(3)学校におけるキャリア教育の運営について、校内の教職員の共通理解があり、協力して進められているか</p> <p>(4)学校におけるキャリア教育の展開にあたって、各責任者（進路指導主事等）の位置付けや学級担任の役割が明確化され、相互に協力、援助できる関係が成立しているか</p> <p>(5)学校におけるキャリア教育の推進にあたって、全体計画や個別の指導計画などの、必要な計画が立てられ、実践されているか</p> <p>(6)キャリア教育の効果的な実践のために、指導内容や指導・支援方法が工夫され、適切な教材・資料の開発活用に努めているか</p> <p>(7)キャリア教育に必要な施設・設備（作業学習用実習室、キャリアカウンセリング（相談）室、進路支援資料室など）が整備され、よく活用されているか</p> <p>(8)キャリア教育のために必要な経費が年間予算として確保され、適正に執行されているか</p> <p>(9)学校と家庭、関係諸機関との連携・協力が緊密に、しかも計画的に行われているか</p> <p>(10)個別の教育支援計画、個別の支援計画、個別の移行支援計画等の様式が整備され、P D C Aサイクルに基づいて実施されているか</p> <p>(11)学校におけるキャリア教育の充実・改善のために、適時、適切に評価されているか など</p>
<p><b>2 キャリア教育の指導過程の評価の観点の例 (Do)</b></p> <p>(1)児童生徒の発達段階やニーズ等に応じた適切なキャリア教育（進路支援）に関する情報（進路情報）の提供及び指導が行われているか</p> <p>(2)児童生徒の自主的・主体的な活動を支援するような指導が効果的になされ、児童生徒は積極的にその活動に取り組んでいるか</p> <p>(3)担任する児童生徒の理解と児童生徒の自己理解に必要な個人資料が適切に収集され、十分に活用されているか</p> <p>(4)卒業後の生活への関心の高揚や進路適性の吟味、適切な進路選択の方法などに関する支援・指導が効果的に行われたか</p> <p>(5)温かい許容的な雰囲気の中で、児童生徒の自主性を尊重しつつ、キャリアカウンセリング（進路相談）を進めることができているか</p> <p>(6)卒業後の生活への適応や自己表現の達成に必要な能力・態度などの育成を図るための指導・支援がなされているか</p> <p>(7)進路指導部、進路指導主事らとの連携・協力は図られているか</p> <p>(8)児童生徒の保護者の理解や協力を得るための努力がなされているか など</p>
<p><b>3 キャリア教育の指導の成果に関する評価の観点の例 (Check)</b></p> <p>(1)卒業後の進路（職業）や生き方への関心を深め、自分なりの希望や目標をもっているか</p> <p>(2)将来の希望や目標を実現させるための方策や計画を検討し立案しているか</p> <p>(3)自己を理解することの意義や必要性を知り、自己の能力や適性、障害の特性、性格、体力、健康状態などについて理解しようとしているか</p> <p>(4)働くことの意義や、就職したい職種などの目的を自覚し、希望する職種（会社等）の内容や情報を集め、理解しようとしているか</p> <p>(5)自己の能力や適性、就職したい職種に関する情報や内容理解に基づき、自己を生かせる適切な進路を選択、計画しているか</p> <p>(6)自分で納得のいく意志決定ができ、選んだ進路に責任と誇りをもつことができるか</p> <p>(7)自己の障害の特性を理解し、それに対応するためのスキルや援助を受けるための方法を身に付けているか</p> <p>(8)卒業後の生活によりよく適応し、自己実現を達成させていくのに必要な意欲や心構えが身に付いているか など</p>
<p><b>4 キャリア教育の調整行動（改善）の評価の観点の例 (Action)</b></p> <p>(1)評価が適正に行われ、評価の結果について、全職員が理解しているか</p> <p>(2)成果があった項目について、うまくいった要因の分析が十分に行われ、その成果（手だて等）を全職員で共有できているか</p> <p>(3)成果が十分上がらなかった項目について、その要因の分析が十分に行われ、課題や手だてを明らかにしているか</p> <p>(4)児童生徒一人一人、学級、学年、学部、学校としてのキャリア教育の成果と課題が共有できるシステムがあるか</p> <p>(5)それぞれの計画が関連性、系統性をもって実行されていたか、またそれを検証するシステムは有効に機能したか</p> <p>(6)出された課題の緊急度や解決・実現の可能性、費用対効果について検証がなされているか</p> <p>(7)次年度の計画立案に向けての手順が明確に示され、実行されているか</p> <p>(8)学校長の次年度に向けてのビジョンが示され、それに基づいた改善案や計画案となっているか</p> <p>(9)社会情勢の変化や学校へのニーズの変化を踏まえた改善案や計画案となっているか など</p>

【資料4】特別支援学校キャリア教育全体学習計画（例）

<p><b>キャリア教育の目的</b></p> <p>ライフステージや発達段階に応じて求められる役割を果たそうとする意欲や具体的な力を身につけ、社会参加と自立、豊かな生活の実現を図る</p> <p>&lt;キャリア教育の内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤労観、職業観の育成</li> <li>・家庭生活、社会生活に必要な知識や技能の育成</li> <li>・自主的、主体的に活動する力の育成</li> </ul>	<p><b>学校教育目標</b></p> <p>一人一人に自立と社会参加の基礎となる生きる力を育成し、みんなとともに、自分らしく生きる力を実現する</p> <p>&lt;目指す子ども像&gt;</p> <p>自分から、自分で、自分らしく、みんなとともに生き生きと生活する子ども</p> <p><b>学部目標</b></p> <p>&lt;小学部&gt; 健康な身体づくりと日常生活習慣の確立を目指し、身近な人や社会への関心を高める</p> <p>&lt;中学部&gt; 集団や他者との関係の中で、自ら選び、自ら活動し、「自己」を発揮する</p> <p>&lt;高等部&gt; 社会の中で自分の個性や力を発揮し、生涯にわたって充実感を持ち続けて生活する姿を実現する</p>	<p><b>教育関係法規</b></p> <p>日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、岩手県学校教育指導指針等</p> <p><b>児童生徒・保護者の願い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことは自分でできるようになりたい</li> <li>・毎日、元気に楽しく生活したい</li> <li>・地域の中に友達がほしい</li> <li>・いろいろな事に挑戦し、やりたい仕事を見つけたい</li> <li>・家から遠くないところで働きたい等</li> </ul>
---	---	--

**進路支援部 方針**

児童生徒・保護者の思いや願いを支え、その実現に向けた適切な支援ができるよう、小学部からの組織的、系統的なキャリア教育を推進する

<主な事業内容>

進路に関する学習の計画、職場開拓、実習渉外、卒後指導、進路研修会、支援会議など

**キャリア教育 学部方針**

<小学部> 生活に即した体験的学習をとおして、自分から、自分で物事に取り組みようとする意欲・態度及び日常生活に必要な力が身に付くよう支援する

<中学部> 校外学習や作業学習をとおして、社会生活に対する関心を高め、みんなとともに働くことや自分らしさを表現する力が身に付くよう支援する

<高等部> 実習や販売活動等をとおして社会生活に必要な実際の知識・技能を身に付けると共に職業に対する理解を深め、自己実現の道筋をつかめるよう支援する

**各学部段階におけるキャリア発達能力の目標**

各学部段階	小学部	中学部	高等部
職業（進路）発達段階	身近自立の確立と人間関係の基盤形成	社会生活能力と自己表現力の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定力の育成
職業に関する発達領域	かかわる力（人、もの、情報とよりよくかかわる力） えがく力（夢・目標・見通し・役割をえがく力） もとめる力（より良い方向に向けて選ぶ・決定する力）	人や物に対して興味・関心をもつ いろいろな仕事があることを知る 自分で選ぶことができる	周囲の人と協力して活動する 見通しをもって役割に取り組む 自分で決めたことに責任をもつ
領域的力の	はたらく力（学習や作業を行う力、役割を果たす力） 生活する力（家庭生活や社会生活を行う力） たのしむ力（余暇を活用し、生活を楽しむ力）	学習や遊びに進んで取り組む 身の周りのことが自分でできる 好きなことに集中して取り組む	基本的な働く力を身に付ける 基本的生活習慣を身に付ける 地域資源を活用して楽しむ
領域的力の			場面や目的に応じて適切にかかわる 夢への見通しをえがく より良い方法を自分で判断する
領域的力の			主体的に働く力を身に付ける 社会生活に必要な力を身に付ける 趣味を広げたり、深める方法を知る

**各教科・領域等におけるキャリア発達能力の指導目標**

教科別の指導	領域別の指導		領域・教科を合わせた指導				総合的な学習の時間等（交流・共同学習・地域活動）	
	特別活動	自立活動	日常生活の指導	遊びの指導	生活単元学習	作業学習		
小学部	日常生活を主体的に暮らすために必要な基本的な概念や知識・技能を身に付ける	クラブ活動や交流学習をとおして、自分から活動しようとする意欲を高める	具体物や絵カード等を利用して、基本的な認知の概念形成を促す	生活の流れに沿って、必要な支援を受けながら、衣服の着脱や排泄、食事などができる	遊びをとおして「人、もの、ものごと」に自発的に関わろうとする意欲を育てる	生活に結び付いた活動を意欲的、主体的に取り組む、達成感を味わう		
中学部	社会生活に必要な基本的な知識や技能を身に付け、生活の中に生かすことができる	学級や生徒会の中で決められた役割を果たしたり、余暇を楽しんだりする	絵カードや機器等で自分の意思を伝える。スケジュールに沿って行動する	友だちと協力して係活動を行ったり、スケジュールを見て一人で行動できる		社会的な意義をもつ活動をおこなって、社会生活への知識・技能・関心を高める	作業をとおして働くことの意義や喜びを感じ、働くことに慣れる	出身地域のイベントに参加したり、公共施設を利用したりできる
高等部	社会参加と自立に必要な知識や技能を身に付け、主体的に表現・判断・決定できる	自分たちで、必要なことを調べ、話し合っ、計画を立てて活動することができる	生活に見通しをもって、安定して課題に取り組むことができる	自主的、主体的に係活動や生活に必要な活動を自分で判断しながら行うことができる		行事等の計画を自分たちで立て、実行し、自主的、主体的活動を行う	作業や実習をとおして、作業能力を高めたり、社会生活に必要な知識・技能を身に付ける	出身市町村の歴史や文化・観光を調べ、発表できる

**キャリア教育推進の基盤**

専門性の向上	保護者との連携	地域との連携	関係機関との連携	校内の組織づくり	啓発活動
・自主的、主体的な活動を促す具体的な支援の方法 ・児童生徒の思いを育てるキャリアカウンセリング	・進路研修会 ・連絡帳の活用 ・二者・三者面談 ・ケース会議、支援会議	・地域の祭りへの参加 ・交流・共同学習 ・地域資源の活用 ・居住地交流	・福祉、医療、労働機関との定期的な情報交換 ・支援会議の開催 ・他校との連携	・全体推進計画 ・全体学習計画 ・学部、学年、校務分掌間の連携	・学校HPによる発信 ・関係会議等による活動 ・リーフレット

【資料5】特別支援学校 キャリア教育学習プログラム 枠組み（例）

	幼稚園・保育所		小学部		中学部	高等部	卒業後	
	早期療育	1～3年	4～6年					
進路発達段階	生活基盤形成		身辺自立の確立と人間関係の基盤形成		社会生活能力と自己表現力の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定力の育成	社会的移行	
各発達段階における 主なねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活リズムを整える</li> <li>身辺処理に関心をもつ</li> <li>認知能力を高める</li> <li>自他への関心を高める</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りのことが自分でできる</li> <li>学習や遊びに進んで取り組む</li> <li>コミュニケーション能力を育てる</li> <li>地域や社会への関心を育てる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣を身に付ける</li> <li>自主性・主体性を育てる</li> <li>作業能力を育てる</li> <li>コミュニケーション能力を高める</li> <li>地域や社会への参加を促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活を豊かにするための基礎的な知識・技術・態度を身に付ける</li> <li>主体的に働く力を育てる</li> <li>社会生活に必要な力を育てる</li> <li>自己選択、自己決定力を育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場への適応</li> <li>地域社会への適応</li> <li>余暇活動、生き方</li> </ul>	
勤労観・職業観	勤労観の形成 (日常生活動作と基本的な生活習慣に関する力 社会生活、家庭生活に主体的に参加し役割を果たす力)				職業観の育成 ( 実際の働く力、 職業的な自立に必要な力)			
領域	能力	各学部や発達段階におけるキャリア発達の系統イメージ・関係する教科・領域の活動例						
職業的 (進路) 発達課題に関する領域	かわる力	人・もの・情報とよりよくかわる力 「コミュニケーション能力」 「自己理解能力」 「情報収集・活用能力」	あいさつ・返事をする 他者に関心を示す	感謝する あいさつ・返事ができる 「日常生活の指導(朝の会)」	協力・信頼する 友達と一緒に遊ぶ 「遊びの指導(ゲーム)」	場面や目的に応じたコミュニケーションを図る 友達と協力して活動する 「特別活動(委員会)」	場面や目的に応じたコミュニケーションが取れる 「総合的な学習の時間(調査)」	様々な年代の人や立場の人と円滑なコミュニケーションがとれる
	えがく力	夢・目標・見通し・果たすべき役割をえがく力 「自己表現能力」 「将来設計能力」 「計画実行能力」 「役割把握認識能力」	感情を表す 感情を表す	自分の望み(夢)を表す やりたいことを表す 「遊びの指導(自由遊び)」	望み(夢)をかなえる方法がわかる 自分のやる仕事ができる 夢を広げる 「日常生活の指導(係活動)」 「生活単元学習(社会見学)」	望み(夢)をかなえる方法がわかる 自分の役割を果たす 夢をかなえる方法を探す 「日常生活の指導(係活動)」 「生活単元学習(調べ学習)」	夢の実現に向けて努力する 責任をもって最後までやる 夢の実現に向けて努力する 「特別活動(委員会)」 「現場実習」	夢の実現に向けて将来の生活を見とおしながら努力する
	もとめる力	より良い方向に向けて選ぶ・決定する力 「選択能力」 「自己決定能力」 「課題設定・解決能力」	自分で決めようとする 自分で決めようとする	自分で選べる 二つのうちから一つを選ぶ 「遊びの指導(自由遊び)」 「生活単元学習(個人課題)」	自分で決めたことに責任を持つ たくさんの中から選ぶ 「生活単元学習(個人課題)」 「特別活動(経験)」	より良い方法や内容を選択する 自分でやりたいことを決める 「特別活動(委員会)」 「日常生活の指導・行事(係)」	より良い方法や内容を選択する 将来に向けてより良い方法を選択する 「総合的な学習の時間(進路)」	状況を判断してより適切な方法を選択する
実際の 力の領域	はたらく力	学習や作業を行う力、役割を果たす力 「職業理解能力」 「作業能力」 「健康管理能力」	頼まれたことができる 頼まれたことができる	様々な役割があることを知る 身近な仕事を知る 「生活単元学習(校外学習)」	自分の役割がわかる 様々な職業を知る 「生活単元学習(校外学習)」	自分の役割を果たす 仕事について関心をもつ 作業能力の育成 「作業学習」	職業生活一般に対する知識 作業能力の向上 「作業学習」	与えられた役割を果たし、社会の中で自立する
	生活する力	日常(家庭)生活や社会生活を行う力 「日常生活能力」 「社会生活能力」	基本的な動作ができる 立つ、歩く、持つなどができる	身のまわりのことができる 日常生活動作の獲得 「日常生活の指導」 「自立活動」	社会生活に必要な力が身につく 基本的な生活習慣の獲得 「日常生活の指導」 「自立活動」	社会生活における様々な知識・技能を身につける 社会生活能力の基礎を身に付ける 「生活単元学習(行事)」 「各教科(国語・数学・家庭等)」	社会生活能力を高める 「生活単元学習」 「総合的な学習の時間」	実践的な社会生活能力の向上
	たのしむ力	余暇を活用し、生活を楽しむ力 「余暇活用能力」 「元気回復能力」	欲求を表現できる 快・不快がわかる	好きなことをやろうとする 好き・嫌いを表現する 「遊びの指導」 「特別活動」	好きなことをやるための手段がわかる 好きな活動を自分から行う 「特別活動(クラブ)」	自分の興味をもつ 「特別活動(クラブ)」	自分の興味・関心に基づいた活動ができる 趣味を広げ、自分で趣味を深める 「特別活動(クラブ)」 「課外活動」	余暇を有意義に活用できる

< 学校外における支援内容 >

一人一人のニーズや特性を考慮し、本人・家族・関係者の夢をつなぎかなえる「個別の支援計画(個別的教育支援計画・個別の移行支援計画)」による連携

家庭	<役割> 障害を正しく理解し、あたたかく養育する。一番身近な支援者として本人の気持ちにより添う	早期発見・早期療育 障害理解・受容 安定した母子関係の確立 医療・相談機関との連携	学校・医療・福祉との連携 日常生活動作や基本的な生活習慣の支援・教育 安らぎの場としての機能 福祉・進路情報の収集 地域活動への参加支援 福祉サービスの利用	左に追加：自主的活動の支援 主体性の育成 性についての支援	左に追加：進路先への理解 進路に向けた支援体制の確立	左に追加：本人活動の支援 金銭管理等の必要最低限の支援、精神的な支え
地域	<役割> 地域の一員として受け入れ、必要な支援を行う。家族を支援する。	障害の理解 家族支援	障害の理解 こども会活動への参加支援 地域行事への参加支援	障害の理解 地域行事への参加支援 地域への受け入れ	障害の理解と支援 実習の受け入れ 地域への受け入れと具体的な支援	障害の理解と支援 地域への受け入れ 本人への具体的な支援
関係機関	<役割> 本人・家族の気持ちを大切にしながら、本人・家族の幸せを守るための必要な支援を行う	保健：早期発見、早期療育 行政：就学指導 福祉：福祉制度の活用案内、福祉サービス	保健：定期的観察 行政：就学指導、福祉サービスの案内 福祉：福祉サービスの提供	保健：定期的観察 労働：情報提供 福祉：福祉サービスの提供	保健：定期的観察 労働：就職の斡旋、職業訓練 福祉：福祉サービスの提供	保健：定期健診、加齢対策 労働：職場指導 福祉：福祉サービスの提供

【社会参加と自立・豊かな生活の実現】「自分から自分で自分らしくみんなとともに生き生きと暮らす人」

【資料6】キャリア教育学習プログラム 「各教科・領域等」(例)

		各学部段階毎の教科・領域等の学習のねらいと達成目標						
		ねらい・関連	小学部(1~3年)	小学部(4~6年)	中学部	高等部		
国語	<p>&lt;全体のねらい&gt; 日常生活や社会生活の中で必要な国語の力を育て、自分の気持ちを表現したり、相手の話を理解する能力を育てることで、コミュニケーション能力、自己表現能力、余暇活用能力等を高める。</p> <p>&lt;キャリア発達能力との関連&gt; 「かかわる力」 「えがく力」 「たのしむ力」</p>	<p>ねらい ことばに対する興味・関心をもつ。日常生活に必要なことばがわかる。</p> <p>達成目標 か 簡単な質問に対して意思表示ができる。 か 身のまわりの物の名前がわかる え 自分の気持ちを表現できる</p> <p>題材例 「ものなまえ」 「どっちがすき」 「おはなしをきこう」</p>	<p>日常生活に必要な基本的なことばがわかり、使うことができる。</p> <p>か ひらがなで書かれた自分の名前を選ぶ か その場にふさわしいあいさつができる た 友達や先生といろいろな会話ができる</p> <p>「ひらがな」 「あいさつをしよう」 「できごとを話そう」</p>	<p>日常生活に必要なことばの理解を深め、社会生活や職業生活の基礎を育てる。</p> <p>か 簡単な文章を書いたり読んだりできる え 自分の気持ちをことばで伝えることができる た テレビのニュース等に興味や関心をもつ</p> <p>「遠足の作文を書こう」 「友達の発表を聞こう」 「ニュース調べ」</p>	<p>日常生活や社会生活に必要なことばの理解を深め、適切に活用することができる。</p> <p>か お礼状や年賀状を書くことができる え 自分の気持ちを適切に相手に伝えることができる た 物語、劇、放送などを見て楽しみ、感想を話す</p> <p>「実習のお礼状を書こう」 「10年後の自分」 「芸術鑑賞会の感想」</p>			
	算数・数学	<p>&lt;全体のねらい&gt; 日常生活や社会生活の中で必要な数量や図形、計算などに対する興味関心を高め、活用する能力を身に付けることで、課題解決能力や作業能力等を高める。</p> <p>&lt;キャリア発達能力との関連&gt; 「えがく力」 「はたらく力」 「生活する力」</p>	<p>ねらい 色、形、大きさの違いに気付き、対応したり、集めたりすることができる。</p> <p>達成目標 え 大きい方をえらぶことができる は 積み木を積んだり、カードを並べたりできる 生 朝、昼、夜の違いがわかる</p> <p>題材例 「大きさ比べ」 「積み木あそび」 「色合わせ」</p>	<p>初歩的な数量や図や形、位置、時計の理解、簡単な計算をすることができる。</p> <p>え 5までの数の合成・分解ができる は 友達に1枚ずつカードを配ることができる 生 時計やチャイムで給食の時間がわかる</p> <p>「ぜんぶでいくつ」 「どっちが重い」 「すころくゲーム」</p>	<p>日常生活に必要な数量や図形に関する理解を深め、生活で活用することができる。</p> <p>え 10までの数を確実に数えることができる は 3桁の数字を読むことができる 生 時計や暦の見方がわかる</p> <p>「お金の種類」 「加減乗除」 「カレンダーづくり」</p>	<p>生活に必要な数量や図形などに関する理解をさらに深め、活用することができる。</p> <p>え 決められた金額内で買い物ができる は 長さ、重さの単位の関係がわかり、活用できる 生 自分で時計を見ながら、行動することができる</p> <p>「こづかい帳」 「単位の学習」 「時刻表」</p>		
		音楽	<p>&lt;全体のねらい&gt; 表現及び鑑賞する力を培い、音楽に対する興味関心を高めることで、生活を明るく楽しいものにしようとする余暇活用能力や自己表現能力等を高める。</p> <p>&lt;キャリア発達能力との関連&gt; 「かかわる力」 「えがく力」 「たのしむ力」</p>	<p>ねらい 音の高さやリズムの違いに気付き、自分から音楽に親しもうとする態度を育てる。</p> <p>達成目標 か 自分から楽器に手を伸ばし音を鳴らす え 友だちと一緒に声を出して楽しむ た 好きな曲を楽しみながら大きく</p> <p>題材例 「がっきあそび」 「からだあそびうた」 「音楽鑑賞」</p>	<p>簡単な歌やメロディーに合わせて歌ったり、身体を動かして楽しんだりすることができる。</p> <p>か 友だちと一緒に歌ったり、身体を動かす え 自分の好きな楽器で簡単なリズムをとる た 好きな曲を歌ったり、リズムをとる</p> <p>「簡単な合奏」 「今月のうた」 「音楽鑑賞」</p>	<p>色々な音楽の違いを楽しみながら聞いたり、自分なりに表現したりすることができる。</p> <p>か 友だちと声を合わせて歌うことができる え 身体を使って、曲の楽しさを表現する た 生活の中で音楽を楽しむことができる</p> <p>「日本や世界の音楽」 「合奏」 「コンサートを聞こう」</p>	<p>音楽を活用して、生活が明るく楽しくなるように工夫したり、自分なりに楽しんだりする。</p> <p>か みんなと協力して、歌ったり演奏する え 一人でみんなの前で歌ったり演奏できる 生 生活の中で音楽を楽しむことができる</p> <p>「合唱」 「日本の楽器に親しもう」 「発表会をしよう」</p>	
			指導 図画工作・美術	<p>&lt;全体のねらい&gt; 造形活動や鑑賞をとおして、感覚・運動機能の発達を促し、様々な技能の習得や情操を豊かにすることで、自己表現能力や作業能力、余暇活用能力等を高める。</p> <p>&lt;キャリア発達能力との関連&gt; 「かかわる力」 「えがく力」 「たのしむ力」</p>	<p>ねらい 身近にあるものへ触れたり、力を加えたりして造形遊びを楽しむことができる。</p> <p>達成目標 か さまざまな感触のものを触ったり指んだりする え ねんど等で自分なりの形を作ることができる た 様々な感触を楽しみ、自分がかかわろうとする</p> <p>題材例 「砂場あそび」 「スタンプあそび」 「ねんどだんごづくり」</p>	<p>造形活動をとおして、はさみやのり、絵の具などの使い方に慣れたり、楽しんだりする。</p> <p>か 友だちの作品を見て、自分との違いに気付く え 身近な人の顔を描くことができる た 素材の違いや色を楽しむ</p> <p>「友だちをかこう」 「貼り絵づくり」 「オープン陶芸」</p>	<p>様々な道具の使い方に慣れ、基礎的な表現力や鑑賞力を伸ばす。</p> <p>か はさみやカッターを適切に使うことができる え 自分で色を選んで、表現することができる た 友だちの作品や芸術作品を楽しむ</p> <p>「切り絵」 「季節の花の絵」 「木版画」</p>	<p>素材にあった道具を適切に使って、創造的な作品を制作し、生活を豊かにする。</p> <p>か 他人の作品の良いところを見つかることができる え 自分の気持ちや体験を絵に表すことができる た 作品づくりに楽しんで取り組む</p> <p>「標語ポスター」 「オリジナルメダル作り」 「共同作品」</p>
				体育・保健体育	<p>&lt;全体のねらい&gt; 運動をとおして、各種運動の技能や体力を身に付けたり、健康で安全な生活を営むための態度や望ましい人間関係を育んだりすることで、コミュニケーション能力、自己表現能力、健康管理能力を高める。</p> <p>&lt;キャリア発達能力との関連&gt; 「かかわる力」 「えがく力」 「はたらく力」</p>	<p>ねらい 運動遊びをとおして、体力の増進や身体を動かすことを楽しむことができる。</p> <p>達成目標 か みんなと一緒に歩いたり、活動できる え おにごっこなどのルールがわかる は 自分で、目的の所まで歩いたり走ったりできる</p> <p>題材例 「ボール遊び」 「町内探検(散歩)」 「かけっこ」</p>	<p>器具や用具を使って安全に遊んだり、簡単なルールに従ってゲームができる。</p> <p>か トランポリンやフラフラゲームの中の自分の役割を果たそうとする え 安全に気をつけて活動することができる</p> <p>「サーキット運動」 「転がしバレー」 「そり遊び」</p>	<p>簡単なスポーツやダンスをとおして互いに協力して安全に運動することができる。</p> <p>か 器具や用具を安全に扱うことができる え 簡単なゲームを自分たちだけ行う は 時間いっぱい体を動かすことができる</p> <p>「バドミントン」 「リレー」 「スキー、そり遊び」</p>
職業・家庭					<p>&lt;全体のねらい&gt; 職業生活及び家庭生活に必要な基礎的な知識と技能の習得を図り、実践的な態度を育てたり、社会参加への見通しや夢を育むこと、将来設計能力、自己決定力、日常生活能力を高める。</p> <p>&lt;キャリア発達能力との関連&gt; 「えがく力」 「もとめる力」 「生活する力」</p>	<p>ねらい 職業生活及び家庭生活に必要な基礎的な知識と技能の習得を図り、実践的な態度を育てたり、社会参加への見通しや夢を育むこと、将来設計能力、自己決定力、日常生活能力を高める。</p> <p>達成目標 え 卒業後の生活をイメージすることができる も 自分のやりたい仕事の職種がわかる 生 自分で考えて昼食を用意することができる</p> <p>題材例 「わたしたちの進路」 「職場実習(事前・事後)」 「買い物・調理」</p>	<p>家庭に関する基礎的な知識技能を身に付けたり、社会生活への関心を高める。</p> <p>え 家庭生活の大切さに気付くことができる も 自分のやりたい仕事の情報を調べる 生 簡単な調理を安全に注意して行うことができる</p> <p>「家の人の仕事調べ」 「インターネット」 「調理実習」</p>	<p>進路に関する学習をとおして、生活に必要な知識や技能を身に付ける。</p> <p>え 卒業後の生活をイメージすることができる も 自分のやりたい仕事の職種がわかる 生 自分で考えて昼食を用意することができる</p> <p>「わたしたちの進路」 「職場実習(事前・事後)」 「買い物・調理」</p>

\* ㊦ ... かかわる力, ㊧ ... えがく力, ㊨ ... もとめる力, ㊩ ... はたらく力, ㊪ ... 生活する力, ㊫ ... たのしむ力

各学部段階毎の教科・領域等の学習のねらいと達成目標					
ねらい・関連		小学部（1～3年）	小学部（4～6年）	中学部	高等部
特別活動	<p>&lt;全体のねらい&gt; 学級活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事などの集団活動や交流学習をとおして、集団での役割を果たしたり、興味関心に基づいた調べ学習を行ったりすることで、社会生活に主体的に参加する態度を高める。</p> <p>&lt;キャリア発達能力との関連&gt; 「かかわる力」 「えがく力」 「もとめる力」</p>	<p>ねらい 交流学習や行事をとおして、多くの人とかがわることに慣れる</p> <p>達成目標 か 初めて会う人にも適切にかかわることができる え 活動に最後まで参加できる も 自分から、参加しようとする意欲をもつ</p> <p>題材例 「小学校との交流」 「学習発表会」 「町内探検」</p>	<p>ねらい クラブ活動や交流学習をとおして、自分から活動しようとする意欲を高める</p> <p>達成目標 か 他のクラスの人とも仲良く活動できる え 活動に見通しをもって参加できる も 自分でやりたい活動を選ぶことができる</p> <p>題材例 「クラブ活動」 「学習交流（小学校）」 「話し合い活動」</p>	<p>ねらい 学級や生徒会の中で決められた役割を果たしたり、余暇を楽しむことができる</p> <p>達成目標 か 他の学年の人と協力して活動できる え 与えられた計画に沿って活動することができる も 自分の興味のあることをパソコン等で調べる</p> <p>題材例 「委員会活動」 「クラブ活動」 「お楽しみタイム」</p>	<p>ねらい 自分たちで、必要なことを調べたり、話し合ったりして活動することができる</p> <p>達成目標 か 他の方の意見も大切にしながら話し合える え 自分で計画を立てて、活動することができる も より良い方向になるように考えることができる</p> <p>題材例 「学級新聞づくり」 「委員会・生徒会活動」 「クラブ活動」</p>
	<p>&lt;全体のねらい&gt; 児童生徒の障害の実態に応じて情緒の安定や認知等の概念形成、コミュニケーション手段の選択や活用に対する指導を行うことで、生活に主体的に参加できる力を高める。</p> <p>&lt;キャリア発達能力との関連&gt; 「かかわる力」 「はたらく力」 「生活する力」</p>	<p>ねらい 外部からの刺激に対して、反応したり、かがわるうとする態度を高める</p> <p>達成目標 か 音や光などの刺激に反応することができる え ものをにぎったり、はなしたりできる も 快・不快を表現することができる</p> <p>題材例 「ミラーボール」 「音の出る玩具」 「リラクゼーション」</p>	<p>ねらい 具体物や絵カード等を利用して、基本的な認知の概念形成を促す</p> <p>達成目標 か 欲しいものを選び、伝えることができる え 小さな物をつまんだりまわしたりできる も 落ち着いて課題に取り組むことができる</p> <p>題材例 「どちらが大きい」 「簡単なパズル」 「のれん作り」</p>	<p>ねらい 絵カードやVOCA等で自分の意思を伝える。スケジュールに沿って行動する</p> <p>達成目標 か 自分の意思を何らかの手段で伝える え 一人で取り組める課題がある も スケジュールに沿って行動することができる</p> <p>題材例 「カレンダーワーク」 「個別課題学習」 「作業」</p>	<p>ねらい 生活に見通しをもって、安定して課題に取り組むことができる</p> <p>達成目標 か 集団の中でも落ち着いて行動できる え 一人で取り組める課題が複数ある も 友だちと一緒に移動したり、働いたりできる</p> <p>題材例 「カレンダーワーク」 「個別課題学習」 「作業」</p>
日常生活の指導	<p>&lt;全体のねらい&gt; 一日の生活の流れに沿った生活に必要な実践的な諸活動を毎日反復して行うことで、望ましい生活習慣の形成を図り、基本的な生活能力を高めるとともに主体的に活動する態度を高める。</p> <p>&lt;キャリア発達能力との関連&gt; 「かかわる力」 「はたらく力」 「生活する力」</p>	<p>ねらい 生活の流れに沿って、支援を受けながら、衣服の着脱や排泄、食事などができる</p> <p>達成目標 か 教師と一緒に、あいさつや返事ができる え 教師と一緒に、当番などの役割ができる も トイレで一人で用をたすことができる</p> <p>題材例 「着替え」 「朝の会」 「トイレタイム」</p>	<p>ねらい 少しの支援で、移動、持ち物管理、着替え、排泄、係活動、食事などができる。</p> <p>達成目標 か あいさつや返事をする え 決められた係活動を一人で も 困ったときは支援を求めることができる</p> <p>題材例 「着替え」 「朝の会」 「朝の学習」</p>	<p>ねらい 友だちと協力して係活動を行い、スケジュールを見て一人で行動できる</p> <p>達成目標 か 友だちや教師に出来事を話すことができる え 協力して係活動やそうじを行うことができる も 日常生活に必要なことがほぼ一人でできる</p> <p>題材例 「朝の会」 「朝の学習」 「そうじ」</p>	<p>ねらい 自主的、主体的に係活動や生活に必要な活動を自分で判断しながら行うことができる</p> <p>達成目標 か 他の方のことを思いやる え 自分から係活動に取り組むことができる も 日常生活に必要なことを一人で行うことができる</p> <p>題材例 「朝の会」 「朝の学習」 「そうじ」</p>
	<p>&lt;全体のねらい&gt; 遊びをとおして、身体活動を活発にし、仲間とのかがわりを促したり、意欲的な活動を育てる。興味や活動の幅を広げ、自らかがわるうとする意欲や自発性を育てる。</p> <p>&lt;キャリア発達能力との関連&gt; 「かかわる力」 「もとめる力」 「たのしむ力」</p>	<p>ねらい 「人、もの、ものごと」に自発的にかがわるうとする意欲を育てる</p> <p>達成目標 か 人やものに興味をしめす え 自分から好きな遊びに取り組む も 人やものとのかがわりを楽しむことができる</p> <p>題材例 「自由あそび」 「ゲーム」 「公園であそぼう」</p>			
を合わせた指導	<p>&lt;全体のねらい&gt; 生活上の課題や問題解決のための一連の活動をとおして、自立的な生活に必要な事柄を学べる。総合的に学習することで、日常生活や社会生活に必要な力を育てる。</p> <p>&lt;キャリア発達能力との関連&gt; 「えがく力」 「もとめる力」 「生活する力」</p>	<p>ねらい</p> <p>達成目標</p> <p>題材例</p>	<p>ねらい 生活に結び付いた活動を意欲的、主体的に取り組み、成就感を味わう</p> <p>達成目標 え 自分がやりたいことをイメージできる も 試行錯誤しながら課題に取り組む も お金の価値がわかり、大切に扱う</p> <p>題材例 「買い物に行こう」 「パザーをしよう」 「遠足」</p>	<p>ねらい 社会的な意義をもつ活動をとおして、社会生活への知識・技能・関心を高める</p> <p>達成目標 え 主な公共施設の役割がわかる も 自分の役割を選ぶことができる も 指示された金額を渡すことができる</p> <p>題材例 「老人ホーム訪問」 「電車やバスで買い物」 「卒業アルバム」</p>	<p>ねらい 行事等の計画を自分たちで立て、実行し、自主的、主体的活動を行う</p> <p>達成目標 え 自分で目標を立てて取り組むことができる も より良いものになるように工夫することができる も 公共施設や交通機関を利用することができる</p> <p>題材例 「クラスマッチ」 「高等部まつり」 「カラオケに行こう」</p>
	<p>&lt;全体のねらい&gt; 将来の職業生活や社会自立に向けて、作業や実習をとおして、働くことの意義や喜びを知り、働くための知識や技能を身に付ける。</p> <p>&lt;キャリア発達能力との関連&gt; 「かかわる力」 「えがく力」 「はたらく力」</p>	<p>ねらい</p> <p>達成目標</p> <p>題材例</p>	<p>ねらい 作業をとおして、働くことの意義や喜びを感じ、働くことに慣れる</p> <p>達成目標 か 分担・協力して作業に取り組む え 手順表や見本を見て、やる内容がわかる も 働くことに慣れ、当たり前前に作業ができる</p> <p>題材例 「園芸・紙工・手芸等」 「校内実習」 「販売活動」</p>	<p>ねらい 作業をとおして、働くことの意義や喜びを感じ、働くことに慣れる</p> <p>達成目標 か 作業や実習をとおして、作業能力を高めたり、社会生活に必要な知識・技能を身に付ける</p> <p>達成目標 か 決まりや礼儀を守って、人とかがわる え 目標や夢を描き、計画を立てて取り組む も 働くことの意義を理解し精一杯働く</p> <p>題材例 「園芸、製菓、木工等」 「職場体験・就業体験」 「販売活動」</p>	

\* ㊦ ... かがわる力、㊥ ... えがく力、㊤ ... もとめる力、㊢ ... はたらく力、㊡ ... 生活する力、㊠ ... たのしむ力

【資料7】各教科・領域等年間題材一覧表(例)小学部高学年(通常学級)

\*月ごとの行事及び各教科等の関連性や、年間を通した各教科等の系統性や関連性をみる

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
教科・領域を合わせた指導	日常生活の指導10	「着替え」 「朝の会」 「カレンダーワーク」 「当番・かかりあいさつ」 「そうじ」 「身体計測」 「保健室の使い方」	「着替え」 「朝の会」 「カレンダーワーク」 「当番・かかりあいさつ」 「そうじ」 「手洗いとうがい」 「手洗い」 「うがい」	「着替え」 「朝の会」 「カレンダーワーク」 「当番・かかりあいさつ」 「そうじ」 「歯みがき」 「はみがきチェック」	「着替え」 「朝の会」 「カレンダーワーク」 「当番・かかりあいさつ」 「そうじ」 「じぶんのもの」 「にもつチェック」	「着替え」 「朝の会」 「カレンダーワーク」 「当番・かかりあいさつ」 「そうじ」 「にもつの整理」 「かける」 「かさねる」	「着替え」 「朝の会」 「カレンダーワーク」 「当番・かかりあいさつ」 「そうじ」 「ひなんくんれん」 「にもつチェック」 「合言葉はおかし」	「着替え」 「朝の会」 「カレンダーワーク」 「当番・かかりあいさつ」 「そうじ」 「個別の学習」 「バスル」	「着替え」 「朝の会」 「カレンダーワーク」 「当番・かかりあいさつ」 「そうじ」 「個別の学習」 「めいろ」	「着替え」 「朝の会」 「カレンダーワーク」 「当番・かかりあいさつ」 「そうじ」 「個別の学習」 「ぬりえ」	「着替え」 「朝の会」 「カレンダーワーク」 「当番・かかりあいさつ」 「そうじ」 「個別の学習」 「えほん」	「着替え」 「朝の会」 「カレンダーワーク」 「当番・かかりあいさつ」 「そうじ」 「おわかれ会に向けて」 「よせがき」	「着替え」 「朝の会」 「カレンダーワーク」 「当番・かかりあいさつ」 「そうじ」 「おわかれ会に向けて」 「よせがき」
	生活単元学習5	「はるだわくわく！」 「新しい学級を知ろう」 「歓迎会をしよう」 「学校探検をしよう」 「みんな遊びぼう」	「そとにでかけよう」 「うれしい春」 「母の日」 「野菜を作ろう」 「町探検をしよう」 「みんな遊びぼう」	「おくらう!けんこうでたのしむ」 「じゆん」 「じよぶな体を作ろう」 「室内での遊びを知ろう」 「お楽しみ会」	「なつだげんきに」 「ゲームしよう」 「宿泊学習」 「夏休みのくらし」	「たのしかったなつやすみ」 「ゲームしよう」 「親子競争の練習をしよう(運動会)」	「親子であそぼう」 「ゲームしよう」 「親子競争の練習をしよう(運動会)」	「たのしいあき」 「買い物しよう」 「秋の遠足」 「ハサミをしよう(工作)」	「ともだちの輪をひろげよう」 「小学校と交流しよう」 「野菜の収穫」 「調理実習」	「ふゆのおもいで」 「お正月をたのしむ」 「クリスマス会」 「餅つき会」	「寒さなんかにもたのしもう」 「冬休みの思い出」 「ゆきあそび」	「おわかれ会をたのしもう」 「お世話になった人に感謝しよう」 「お別れ会をしよう」	「もうすぐしんきゅう」 「卒業生を送る会と卒業式」 「まとめの会をしよう」
教科別指導	国語2	「みんなの名前」 「自分の名前」 「友達の名前」 「みのまわりのもの」 「身の回りの物」 「欲しい物」 「あいさつ(1)」 「あいさつの言葉」	「あいさつ(2)」 「あいさつの種類」 「うれしい春」 「お母さんへの手紙」 「お母さんの仕事」 「感謝の手紙」 「おつかい」 「伝言と報告」 「あいさつと伝言」	「いろいろなしるし」 「校内にある表示や標識」 「校外にある表示や標識」 「でんわごっこ」 「電話機の使い方」 「取りかきと伝言」	「えにっき」 「きのうのできごと」 「絵をかく文を書く」 「絵日記のかき方」 「おもしろい」 「めあてづくり」 「日課表づくり」 「お礼の手紙」	「なつやすみのおもいで」 「ゲームしよう」 「夏休みの思い出」 「感想のまとめ」	「もののなまえ(1)」 「身につけている物」 「運動会や日常生活で使う物」 「うんどうかい」 「招待状」 「プログラム」	「もののなまえ(2)」 「遠足の持ちもの」 「地名」 「ちらしづくり」 「ハサミのチャリ」 「ものがたり」 「読み聞かせ」 「読み聞かせ」 「みんな読んで読む」	「ことばあそび」 「読みのはじめが同じことば」 「名前カルタ取り」 「おはなし」 「本を選ぶ」 「本を読む」 「感想」	「はがきとてがみ」 「はがきと手紙の区別」 「はがきや手紙の書き方」 「ねんがしろう」 「年賀状の書き方」 「感想」	「かきぞめ」 「学年と名前」 「手本の字」 「清書」 「アナウンサー」 「お知らせ」 「アナウンサー」 「感想」	「はのまっぴょう」 「読み聞かせ」 「あらすじ」 「脚本」 「セリフの暗記」 「動作」 「みんなと練習」 「発表」 「鑑賞」	「1ねんかんのおもいで」 「1年間の思い出」 「お礼の手紙」 「来年度の抱負」 「大きな声で発表」
	算数2	「かじりかきしよう」 「5までの数」 「1対の数」 「なかまあつめ」 「仲間集め」 「仲間分け」 「くらべよう(1)」 「大小の比較」 「長短の比較他」	「かずのおけいこ」 「数詞と数」 「大きい比べ」 「あわせていくつ」 「集合数 数の系列」 「数の合成・分解」 「ボウリングゲーム」 「倒れた数と残った数」 「合わせた数他」	「じこくとじかん」 「時刻」 「時間」 「にっかひょうとこよみ」 「日課表や時間割」 「こよみ」	「ジュースやさん」 「水の量を比べる」 「基準量で比べる」 「かさの単位を知る」 「ジュース屋さん」 「かぞえてみよう(1)」 「数を数える」 「大きさ比べ」 「何番目」	「いろいろなかたち」といふ 「形づくり」 「かく」 「切る」 「色塗り」 「仲間分け」	「くらべよう(2)」 「長さ比べ」 「重さ比べ」 「広さ比べ」 「かさ比べ」 「厚さ比べ」 「比べましよう」	「たしざん(1)」 「足し算」 「かじり」 「かじり」 「かじり」 「かじり」 「かじり」 「かじり」	「かぞえてみよう(2)」 「20より大きな数」 「ひきざん(1)」 「引き算」 「計算練習」 「いろいろなかたち」 「四角形づくり」 「仲間分け」	「あわせてみよう」 「合わせる」といふことば 「いくつに分けられる」 「かげざん」 「九九」 「具体物の分配」 「わなげゲーム」 「ゲーム」	「お金の種類と名前」 「乗り物と切符」 「とけい」 「時計と時間」 「生活カレンダー」	「わけてみよう」 「いろいろな数の合成と分解」 「分ける」 「カレンダーを作ろう」 「曜日と日付」 「四季や年中行事」 「カレンダー作り」	「たしざん(2)」 「足し算の意味」 「文章題」 「ひきざん(2)」 「引き算の意味」 「引き算の仕方」 「文章題」
音楽指導	「ちゅうりっぷ」 「歌謡」 「楽器遊び」 「こいのぼり」 「歌謡」 「歌詞の意味」	「てをたたきましよう」 「歌謡」 「楽器遊び」 「かたむむり」 「もりのくまさん」 「身体表現」 「歌謡」	「かえるのうた」 「歌謡」 「輪唱」 「かたむむり」 「身体表現」 「歌謡」	「キャンプだホイ」 「身体表現」 「歌謡」 「さんさおどり」 「盆踊りの体験発表」 「身体表現」	「線路はつづくよどこまでも」 「歌謡」 「楽器遊び」	「さんぽ」 「身体表現」 「歌謡」 「楽器」 「リズム遊び」 「もみじ」 「鑑賞」 「歌謡」	「きらきらぼし」 「歌謡」 「楽器遊び」 「ハスごっこ」 「歌謡」 「身体表現」	「あわてんぼうのサンタクロース」 「歌謡」 「楽器遊び」 「打楽器練習」 「リトミック」 「歌謡」 「身体表現」	「なべなべそこぬけ」 「歌謡」 「身体表現」 「からだあそびうた」 「歌謡」 「身体表現」	「たき火」 「歌謡」 「楽器遊び」 「1年中のうた」 「歌謡」 「歌詞づくり」 「歌謡」	「うれしいひなまつり」 「身体表現」 「歌謡」 「うた」 「歌謡」		
	「はるのはな」 「春の色」 「ちぎってはってこいのぼり」 「はさみとのり」	「いろみずあそび」 「色水づくり」 「はのはのび」 「お母さんの絵」	「きれいなもよう」 「模様づくり」 「なぞる」 「彩色」 「ねんどあそび」 「粘土遊び」 「動物広場」	「おもいでえ」 「お泊り会」 「下絵」 「はり絵」	「おおきなえ」 「水を使って」 「地面にかく」	「すなあそび」 「砂山」 「うんどうかい」 「線がき」 「色でかく」 「鑑賞」	「ともだちのおお」 「顔の観察」 「顔の下絵」 「色塗り」 「焼き物」 「陶板の模様づけ」	「じぶんのいえやのりもの」 「原画作成」 「すくろくづくり」 「クリスマスツリー」 「かざりつけ」	「ふゆやすみのおもいで」 「おまじない」 「下絵かき」 「彩色と鑑賞」	「おにのえ」 「鬼の話」 「下絵と彩色」 「木のとうぶつ」 「形決め」 「つける」	「うた」 「身体表現」 「歌謡」 「うた」 「歌謡」		
領域別指導	「あたらしいなかま」 「みんなのもの」 「やくいんぎぬ」 「じどうそうかい」	「せいけつ」 「あそびかた」 「せいけつ」 「あそびかた」	「じぶんのこと」 「みのまわりのこと」 「せいけつ」 「あそびかた」	「なつにくらし」 「きけんな遊び」 「せいけつ」 「あそびかた」	「なつやすみの体験」 「せいけつ」 「あそびかた」	「1がっきのはんせい」 「せいけつ」 「あそびかた」	「2がっきがはらう」 「マナー(乗り物)」 「せいけつ」 「あそびかた」	「あとかたづけ」 「はやねはやおき」 「せいけつ」 「あそびかた」	「たのしいゆやすみ」 「おこづかい」 「せいけつ」 「あそびかた」	「ストーブ(安全)」 「ともだち」 「せいけつ」 「あそびかた」	「いきもの」 「かんしゃ」 「せいけつ」 「あそびかた」	「がっこうをきれいに」 「1ねんのおわり」 「せいけつ」 「あそびかた」	
	「入学式、歓迎会、児童総会、身体計測」	「校外学習(町内探検)スポーツテスト」	「お楽しみ会」	「宿泊学習」	「水泳記録会」	「運動会」	「秋の遠足」	「交流学習 作品展示・ハサミ」	「クリスマス会」	「雪上教室」	「役員選挙 送る会」	「卒業式」	

## 【資料 8】特別支援学校「進路支援」 全体年間計画（例）

### 1 進路支援部方針

児童生徒・保護者の思いや願いを支え、その実現に向けた適切な支援ができるよう、小学部からの組織的、系統的なキャリア教育を推進する

### 2 キャリア教育学部方針

(小学部)生活に即した体験的学習をとおして、自分から、自分で物事に取り組みようとする意欲・態度及び日常生活に必要な力が身に付くよう支援する  
 (中学部)校外学習や作業学習をとおして、社会生活に対する関心を高め、みんなと共に働くことや自分らしさを表現する力が身に付くよう支援する  
 (高等部)実習や販売活動等をとおして社会生活に必要な実際の知識・技能を身に付けると共に職業に対する理解を深め、自己実現の道筋をつかめるよう支援する

段階	小学部	中学部	高等部1年	高等部2年	高等部3年	進路支援部
課題	身辺自立の確立と人間関係の基盤形成	社会生活能力と自己表現力の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定力の育成			<主な業務> キャリア教育 職場開拓 進路相談 実習渉外 進路関係手続き 進路情報発行 進路の手引き発行
テーマ	<かかわる>	<ひろげる>	<知る>	<求める>	<決める・高める>	
目標	・身のまわりのことを自分でやる ・他者とのコミュニケーション手段をもつ	・役割について理解し、やりきる力をつける ・社会生活への興味・関心を広げる	・自己及び他者理解を図る ・職業について知る ・社会生活の基礎的な知識を得る	・適性にあった職種を求める ・より良い将来を求める力(選択)をつける ・職業への意欲をもつ	・進路先を自己決定する ・知識・技能を高める ・社会生活への意欲を高める	
4月	進路希望調査(5・6年)	進路希望調査(2年・3年)	進路希望調査 学年別進路ガイダンス(進路学習・就職手続き等)			職場開拓(通年)
5月	進路説明会(保護者)・学部別懇談会 進路学習(6年)	三者面談(3年・進路希望)	進路説明会(保護者)・学年懇談会	三者面談(実習先・進路先希望)		新年度版「進路の手引き」発行 「進路通信」
6月	町内探検(3,4年) 社会見学(5,6年)	校内実習(1週間)	校外学習(卒業生進路先見学:企業・施設) 校内実習(1年)・職場体験実習(2年)・職場実習(3年):2週間	実習事前面接	校外学習(加マーク・障害者職業体験) 実習事前面接	
7月	高等部実習見学(小5~中3) 進路学習(6年)	希望体験実習(2~3年)	保護者実習見学 三者面談(実習評価・進路希望確認・就労移行支援チェック)	希望体験実習	特定求職者求人登録 合同就職説明会	「進路通信」 同窓会(卒業生70+)
8月		親子地区別研修会(卒業生との交流・進路に関する研修・レクリエーションなど、各地区で企画)			職業評価	進指導(卒業生進路先訪問)
9月	町内探検(3,4年) 社会見学(5,6年)	高等部見学(2,3年) 校内実習(2週間)	校内実習・職場体験実習(1,2年)・職場実習(3年):2週間		職業評価	「進路通信」
10月	作業単元(5,6年)	保護者実習見学 実習報告会	保護者実習見学 実習報告会			
11月	進路学習(6年)		校外学習(施設交流)	校外学習(社会見学)	選考(施設・一般企業) 内定受理相談・各手続き 進路相談(進路先未定者) 特別実習先開拓・特別実習 個別の移行支援計画の作成	「進路通信」
12月	中学部見学(5,6年) 保護者進路研修会(講演会)	願書提出(3年)	進路希望調査・就労移行支援チェック			
1月		高等部入試(3年)				「進路通信」
2月	進路学習(6年)	合格発表(3年)	校外学習(社会見学) 三者面談(進路の方向性)	校外学習(社会見学)	社会人講座	
3月	入学説明会(6年) <進級・卒業>	入学説明会(3年) <進級・卒業>	<進級>	<進級>	移行支援会議 同窓会説明会 <卒業>	「進路通信」
その他	・高学年で生活単元学習に作業的な単元を入れる(20時間) ・6年で進路学習を年4回各4時間入れ、グループ別活動を行う	・作業学習を週6時間年間を通して実施する ・進路に関する学習を総合的な学習の時間に1回2時間、年間20時間(8月と1月を除く)実施する	・作業学習を週12時間年間を通して実施する ・進路学習の時間を週2時間年間を通して実施する(教科書:「わたしたちの進路」) ・「すてーじ」の購読	・作業学習を週12時間年間を通して実施する ・進路学習の時間を週2時間年間を通して実施する(教科書:「わたしたちの進路」「ひとりだち」) ・「すてーじ」の購読	・作業学習を週12時間年間を通して実施する ・進路学習の時間を週2時間年間を通して実施する(教科書:「ひとりだち」「くらす」) ・「すてーじ」の購読と個人購入の斡旋	*「すてーじ」は手をつなぐ育成会発行の新刊(年4回発行)

保護者のみ

児童生徒・保護者合同

児童生徒のみ